

Tivoli. software

Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On v8.1

Unofficial Installation Guide



本資料について

- IBMのシングルサインオン製品「Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On v8.1」の導入手順を、srchack.orgにて独自に記載したものであり、記載内容での導入手順を保障するものではありません。
srchack.orgは、利用者がこれらの情報を用いて行う一切の行為 について何ら責任を追うものではありません。



動作確認環境

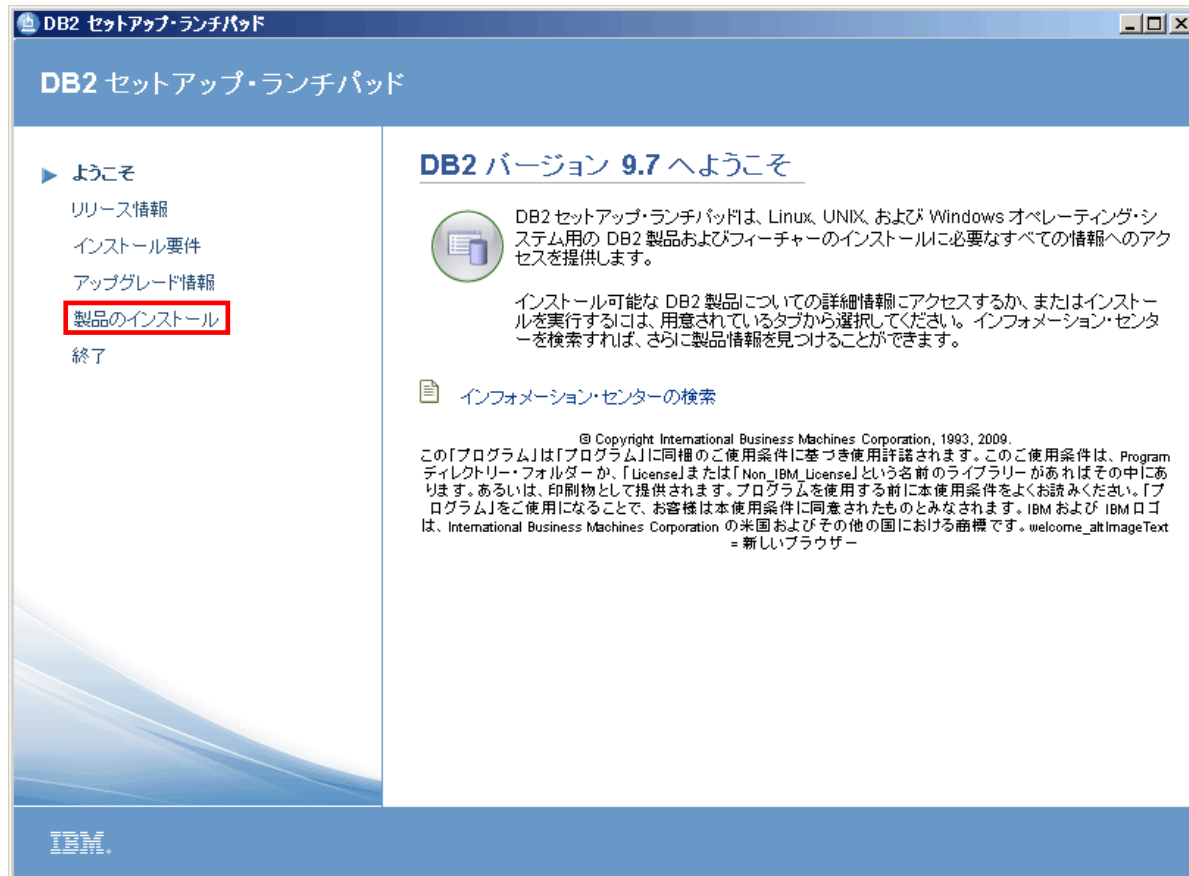
- Windows Server 2003 Enterprise Edition
 - ServicePack2 (2009/11/30までのFix適用済)
- Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On v8.1
- WebSphere Application Server Network Deployment V7.0
 - FixPack7
- IBM HTTP Server V7.0
 - FixPack7
- IBM DB2 9.7 Workgroup Server Edition
 - FixPack1

- VMware Server 1.0.9
 - Athlon 64 3500+
 - 2GB Memory

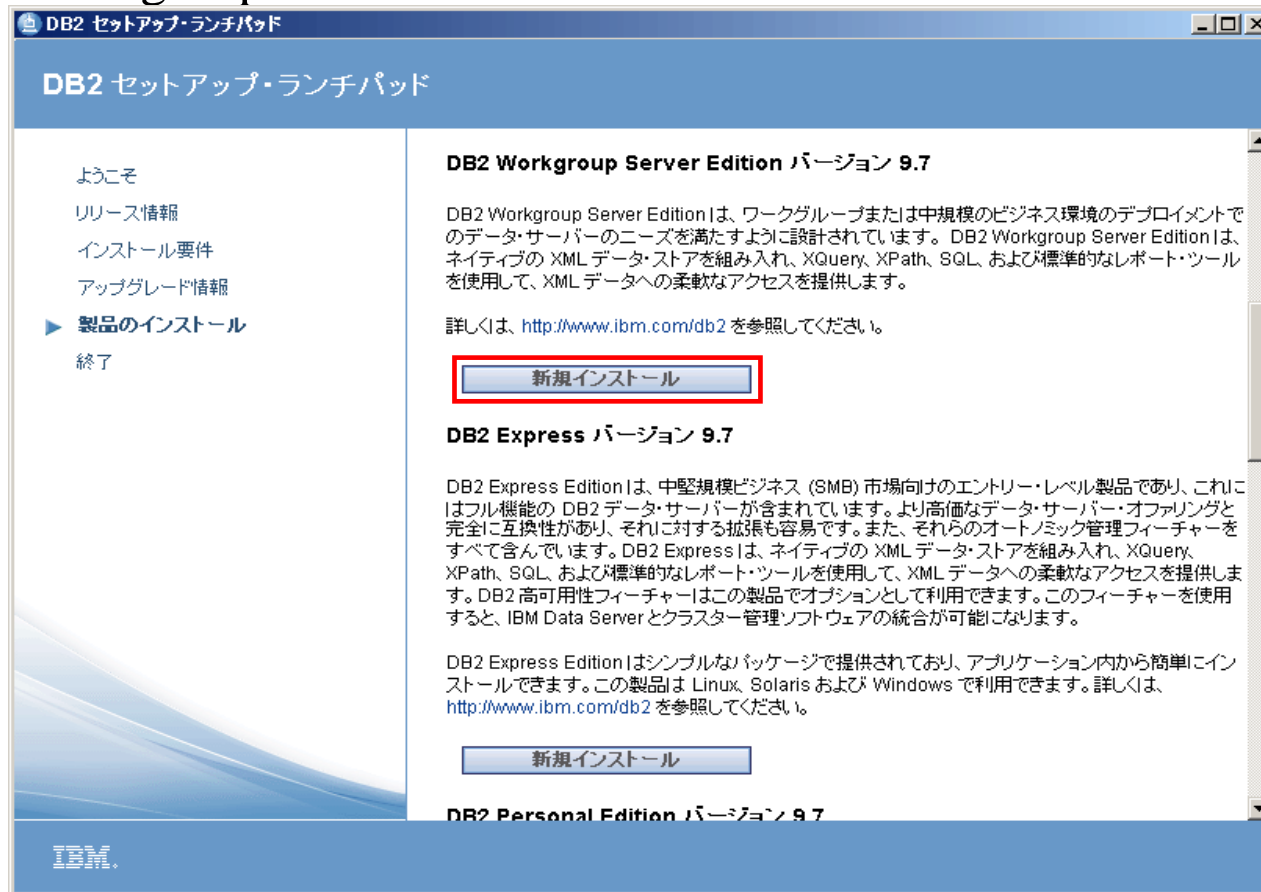


DB2導入

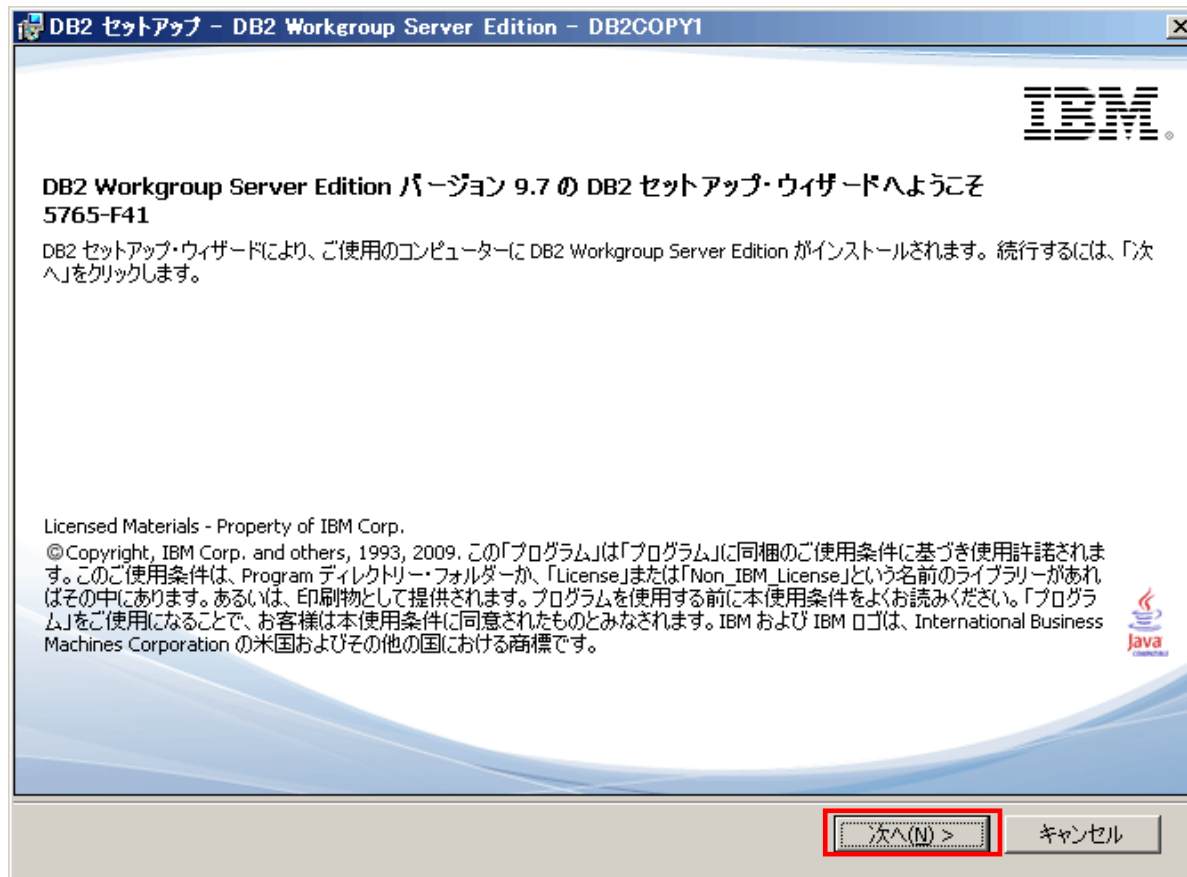
- DB2 9.7 FixPack1のインストールウィザードを起動します。



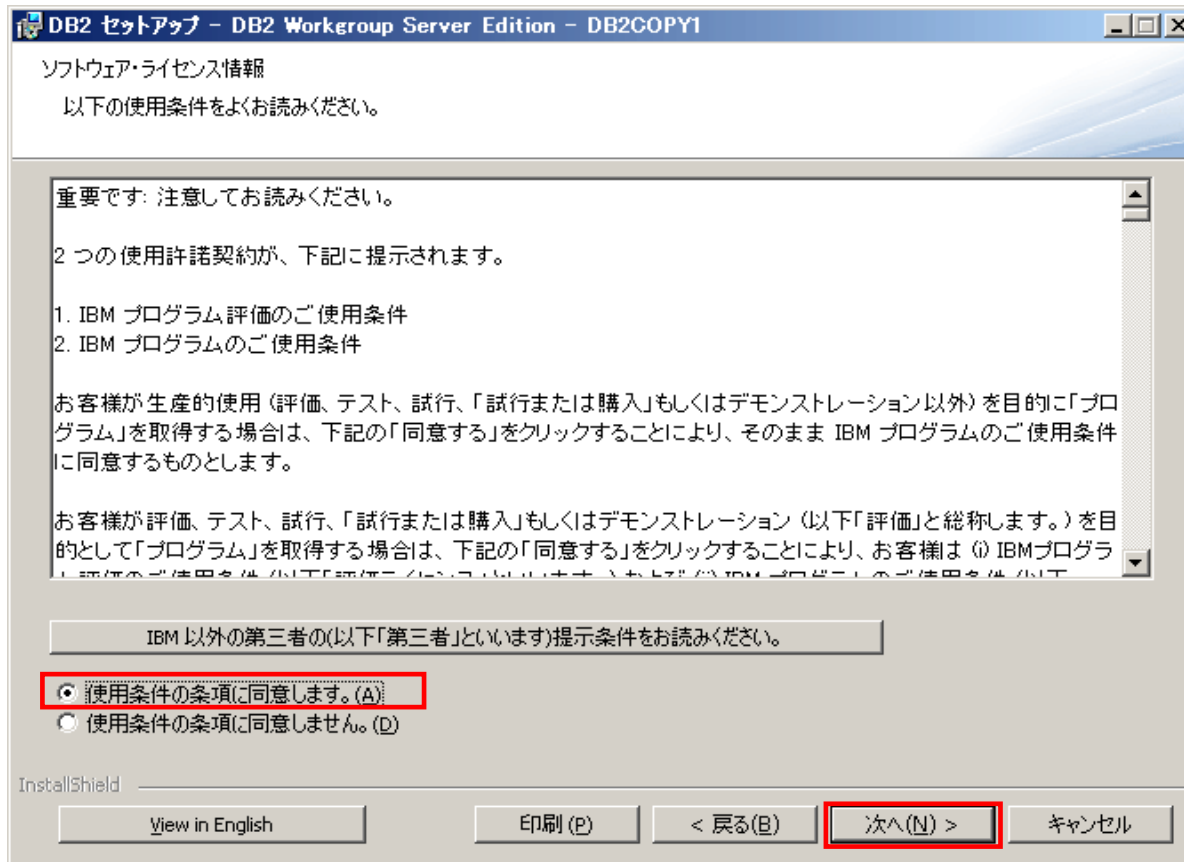
- 以下の画面が表示されます。「製品のインストール」をクリックしてください。Workgroup Server Editionを選択(同梱ライセンス)



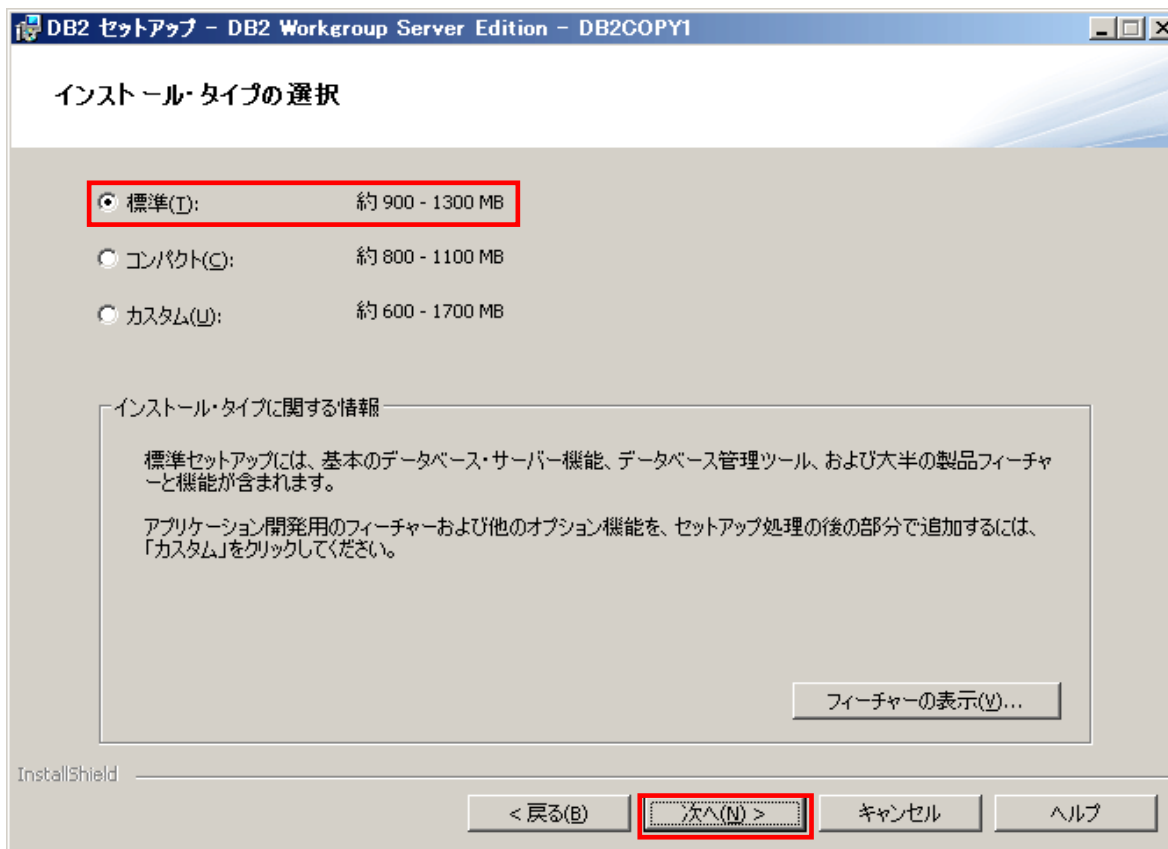
- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



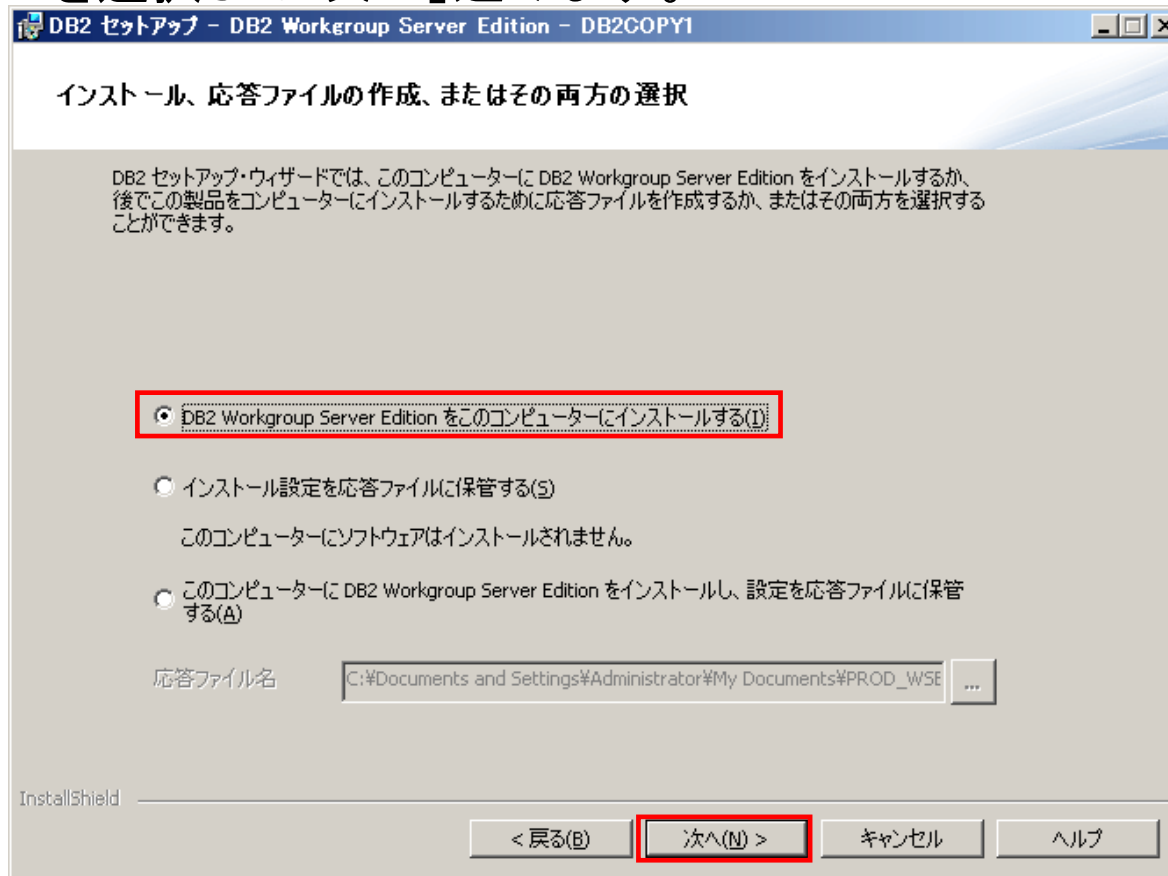
- 以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。



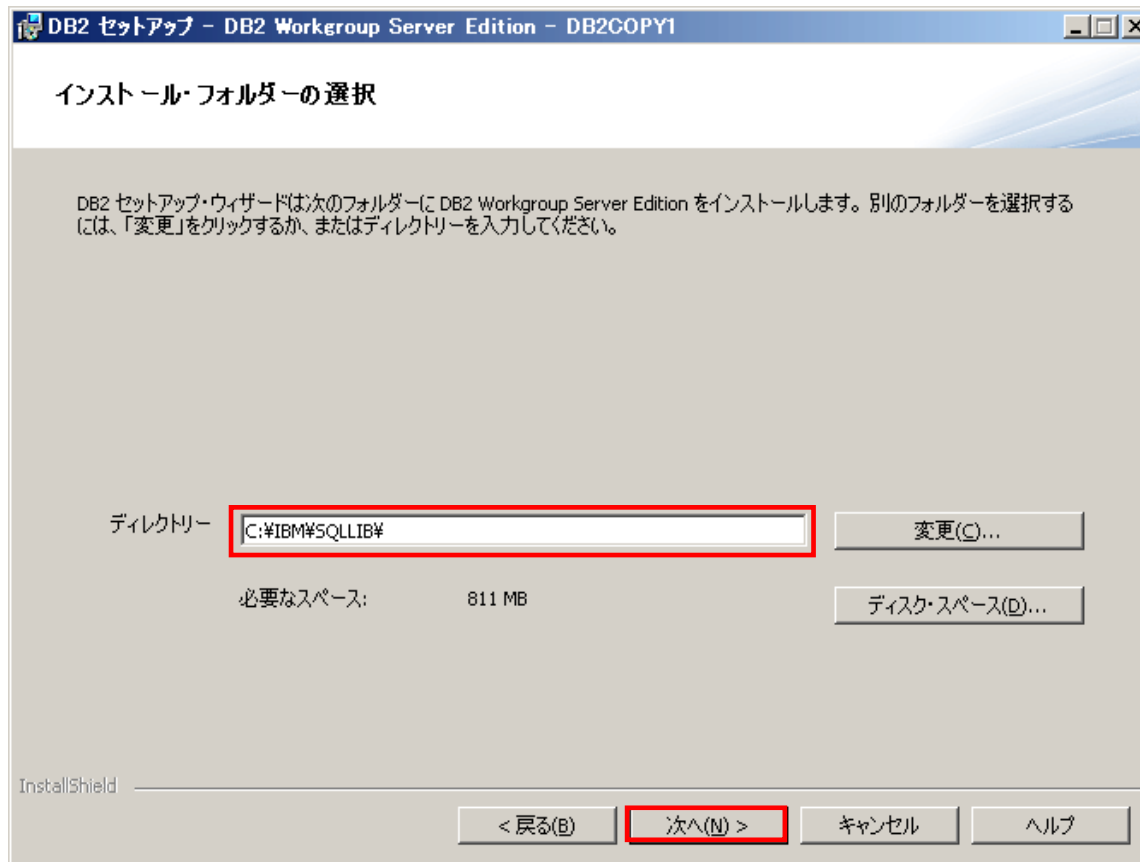
- 以下の画面が表示されます。「標準」インストールタイプを選択して「次へ」をクリックします。



- 以下の画面が表示されます。応答ファイルは保存せずに以下のラジオボタンを選択して「次へ」進みます。



- 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。



- 以下の画面に示すようにDASで使用するユーザを指定してください。

DB2 Administration Server のユーザー情報の設定

DB2 Administration Server (DAS) がご使用のコンピュータで実行され、DB2 ツールで必要なサポートを提供します。
DAS に必要なユーザー情報を指定してください。

LocalSystem アカウントではなくローカル・ユーザー・アカウントまたはドメイン・ユーザー・アカウントを使用することを強く
お勧めします。詳しくは、「ヘルプ」をクリックしてください。

ローカル・ユーザー・アカウントまたはドメイン・ユーザー・アカウント(D)

ユーザー情報

ドメイン	なし - ローカル・ユーザー・アカウントを使用する
ユーザー名	db2admin
パスワード	*****
パスワードの確認	*****

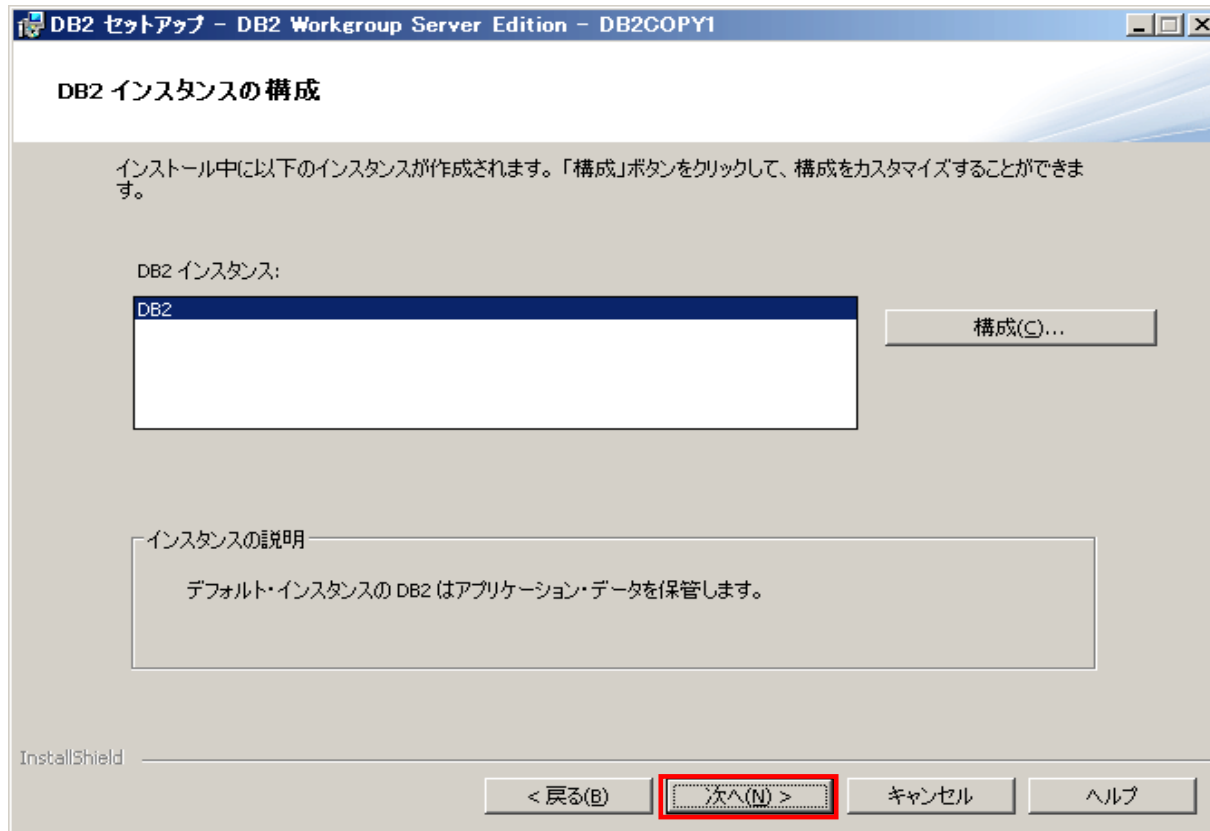
LocalSystem アカウント(L)

同じアカウントを残りの DB2 サービスで使用する(L)

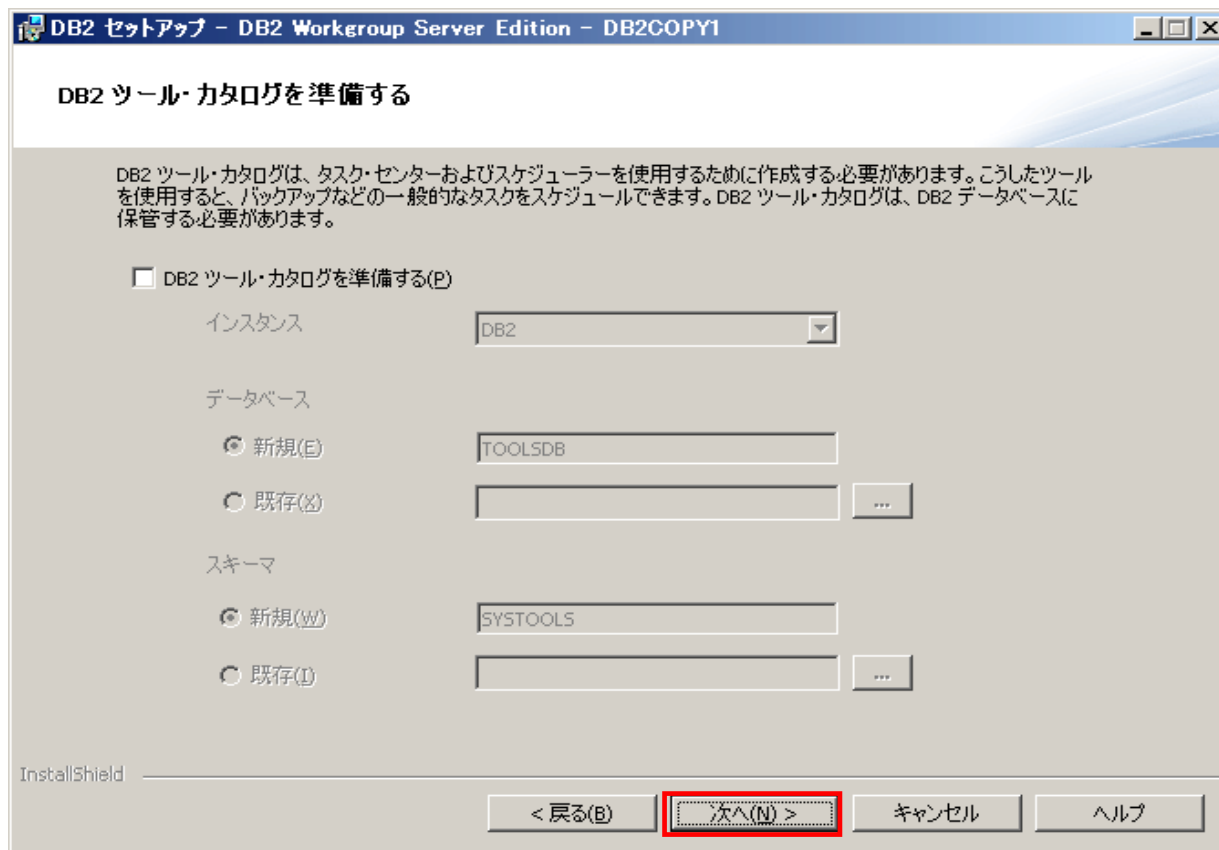
InstallShield

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル ヘルプ

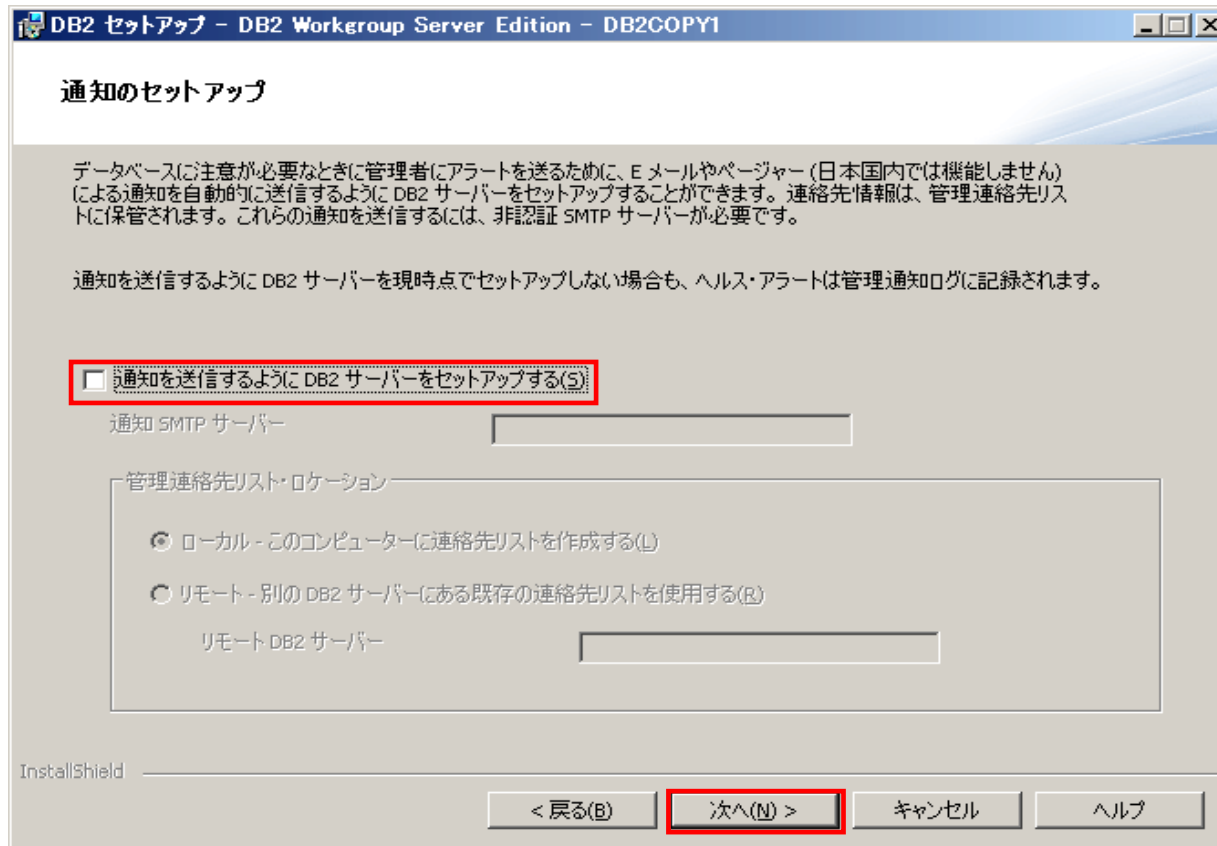
- 以下の画面でDB2のデフォルトインスタンス名を確認して、「次へ」進みます。



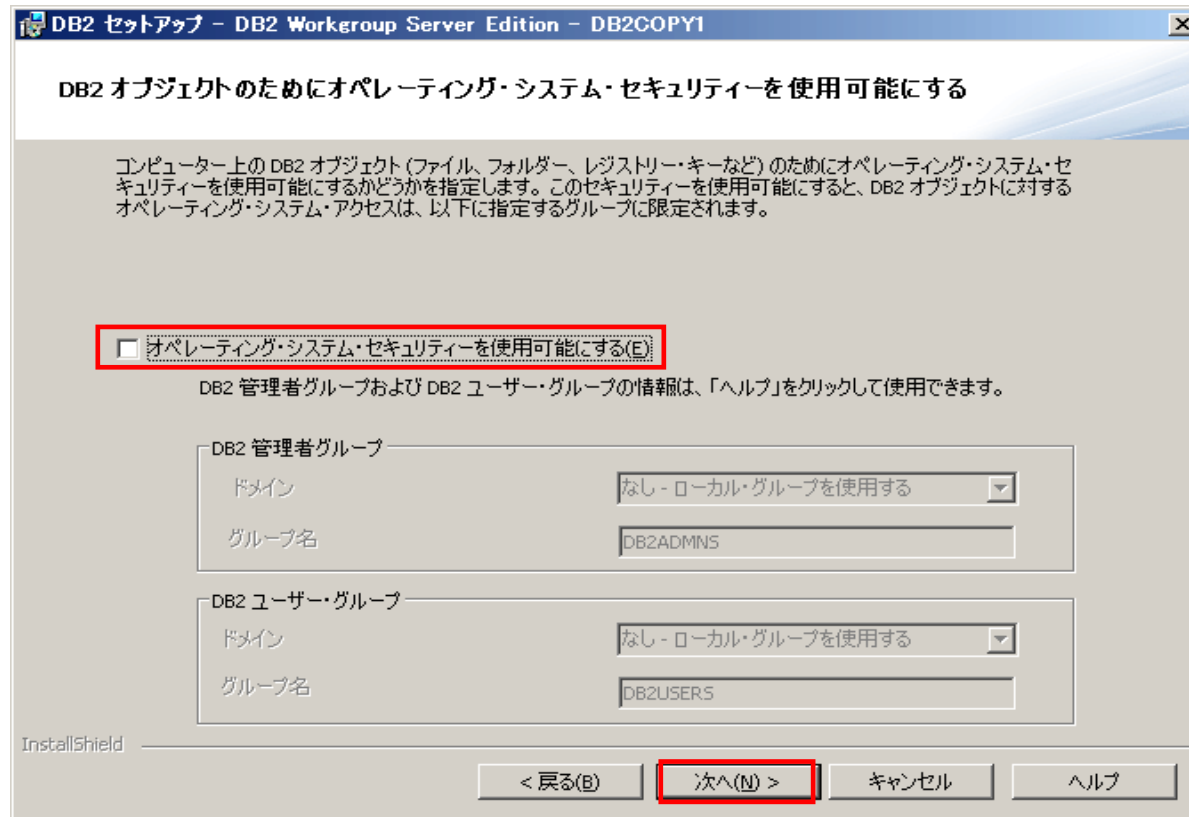
- 以下の画面でDB2のカタログを作成せずに「次へ」進みます。



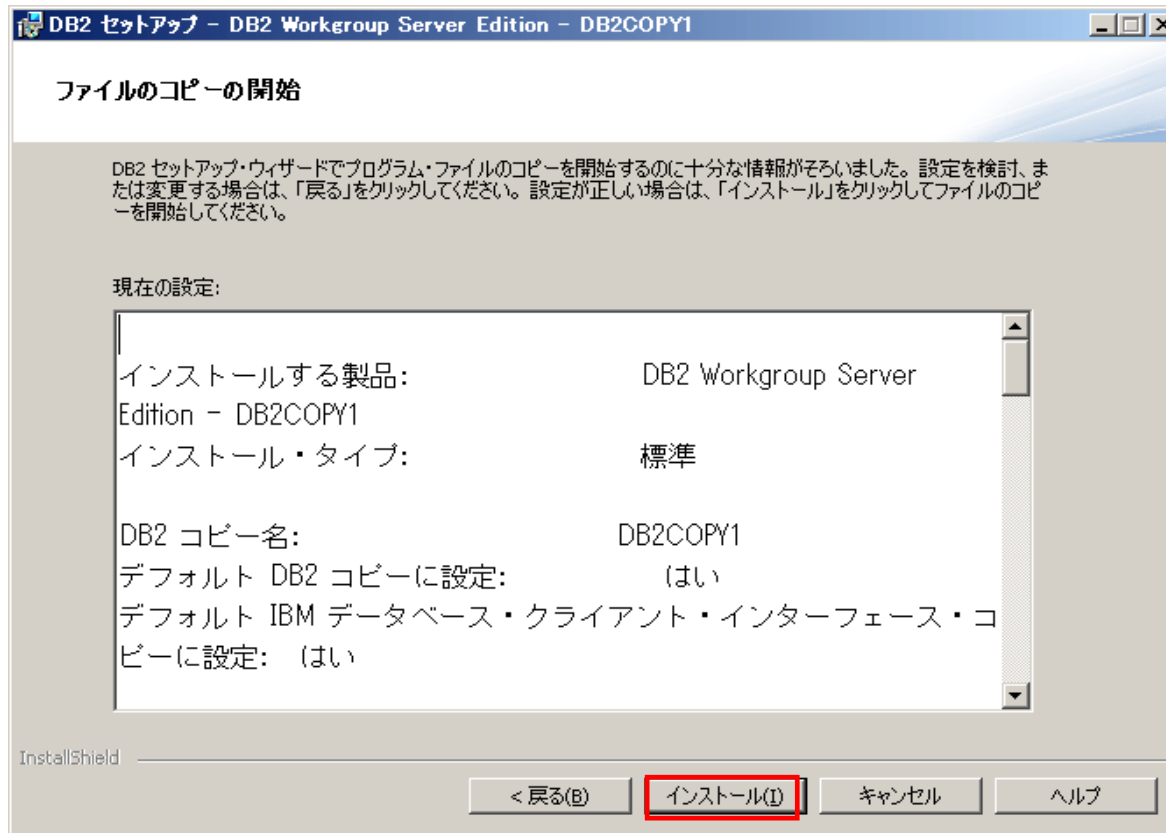
- 以下の画面で管理者への通知送信機能を使用しない選択を行い、「次へ」進みます。



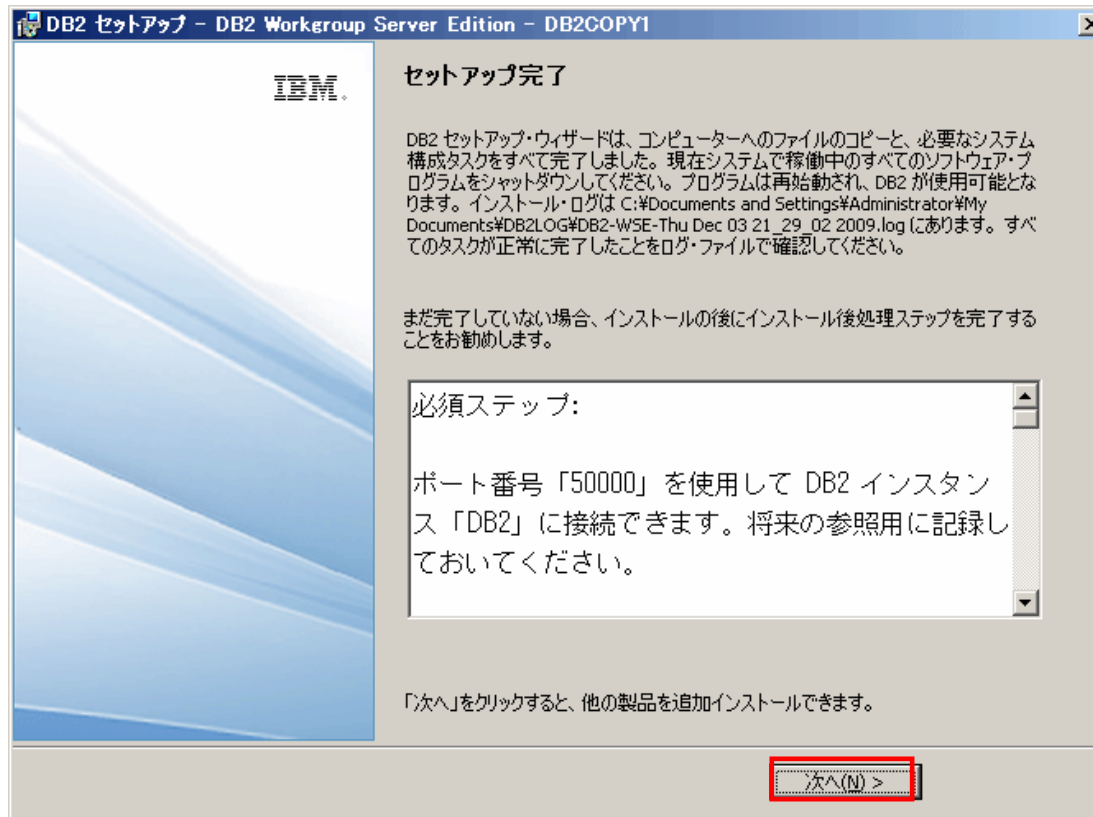
- 以下の画面でオペレーティングシステム・セキュリティを使用しない選択を行い、「次へ」進みます。



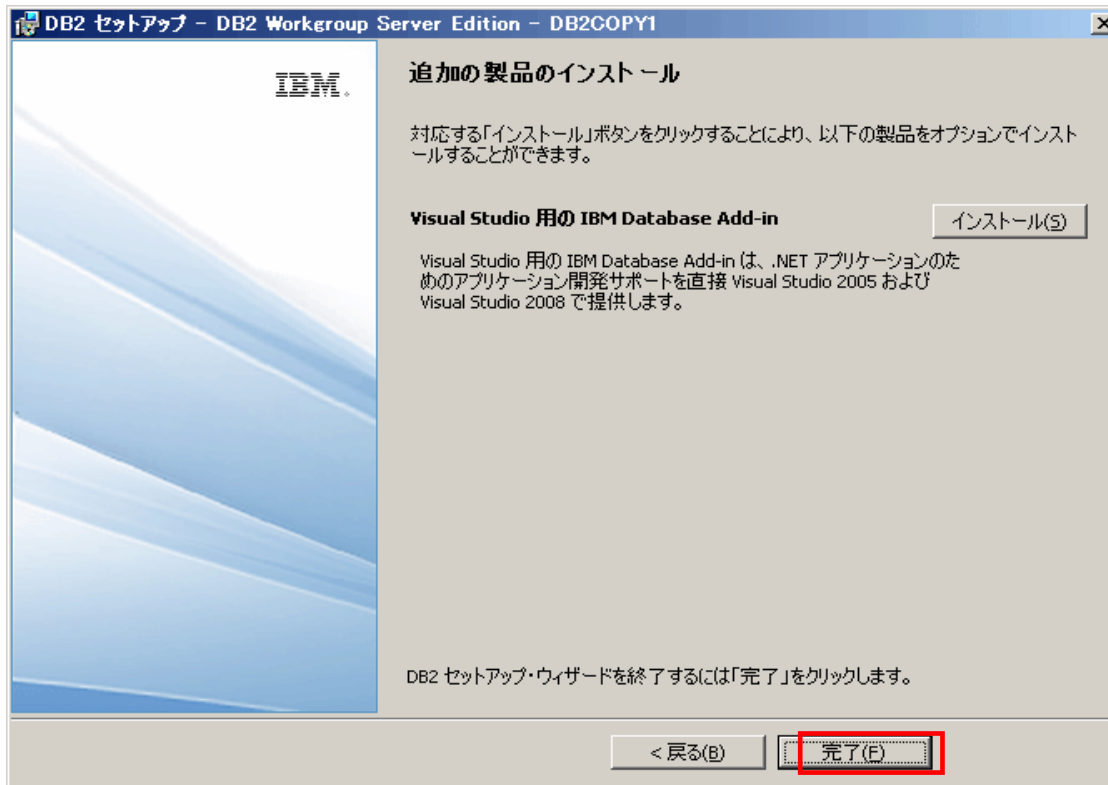
- 以下の設定内容の確認画面を確認し、「インストール」をクリックします。



- 以下の画面でモジュールの導入が開始されます。(DB2の導入には数分～数十分程度かかります。)



- 以下の画面で示された、オプションのインストールは行わずに「完了」します。※導入後Windows再起動を行います。(後々JDBCドライバ絡みの問題が発生する為)



IMSDB作成

- 「スタート」-「プログラム」-「IBM DB2」-「DB2 COPY1(デフォルト)」-「コマンド行ツール」-「コマンド・ウィンドウ」のメニューからDB2のコマンドウィンドウを起動します。

以下の手順に従いIMSが使用するDB2データベースを事前に作成します。

```
C:¥IBM¥SQLLIB¥BIN>cd c:¥
```

```
C:¥>db2 create database IMSDB automatic storage yes on 'C:¥' dbpath on 'C:¥' using codeset utf-8 territory us collate using system pagesize 8192
```

DB20000I CREATE DATABASE コマンドが正常に完了しました。

```
C:¥>db2 connect to IMSDB
```

データベース接続情報

データベース・サーバー	= DB2/NT 9.7.1
SQL 許可 ID	= ADMINIST...
ローカル・データベース別名	= IMSDB

```
C:¥>db2 grant createtab,bindadd,connect on database to user db2admin
```

DB20000I SQL コマンドが正常に完了しました。

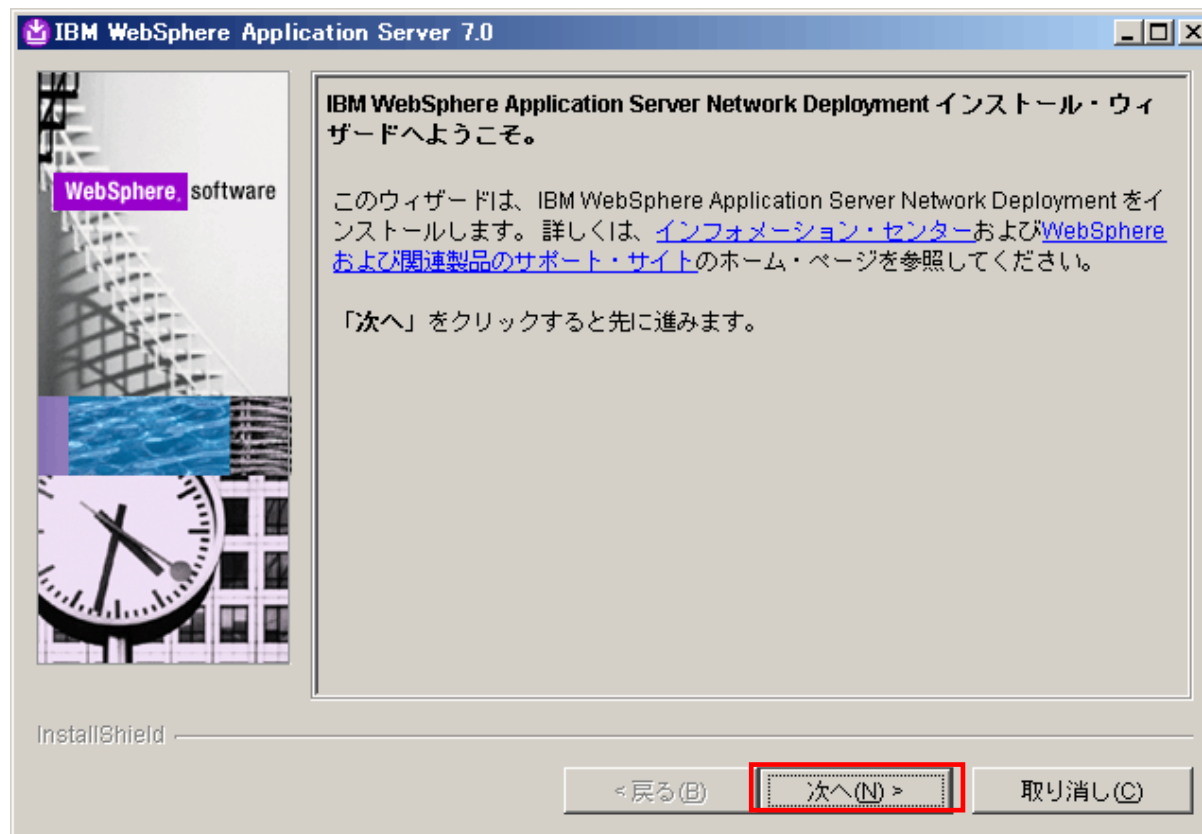


WAS導入

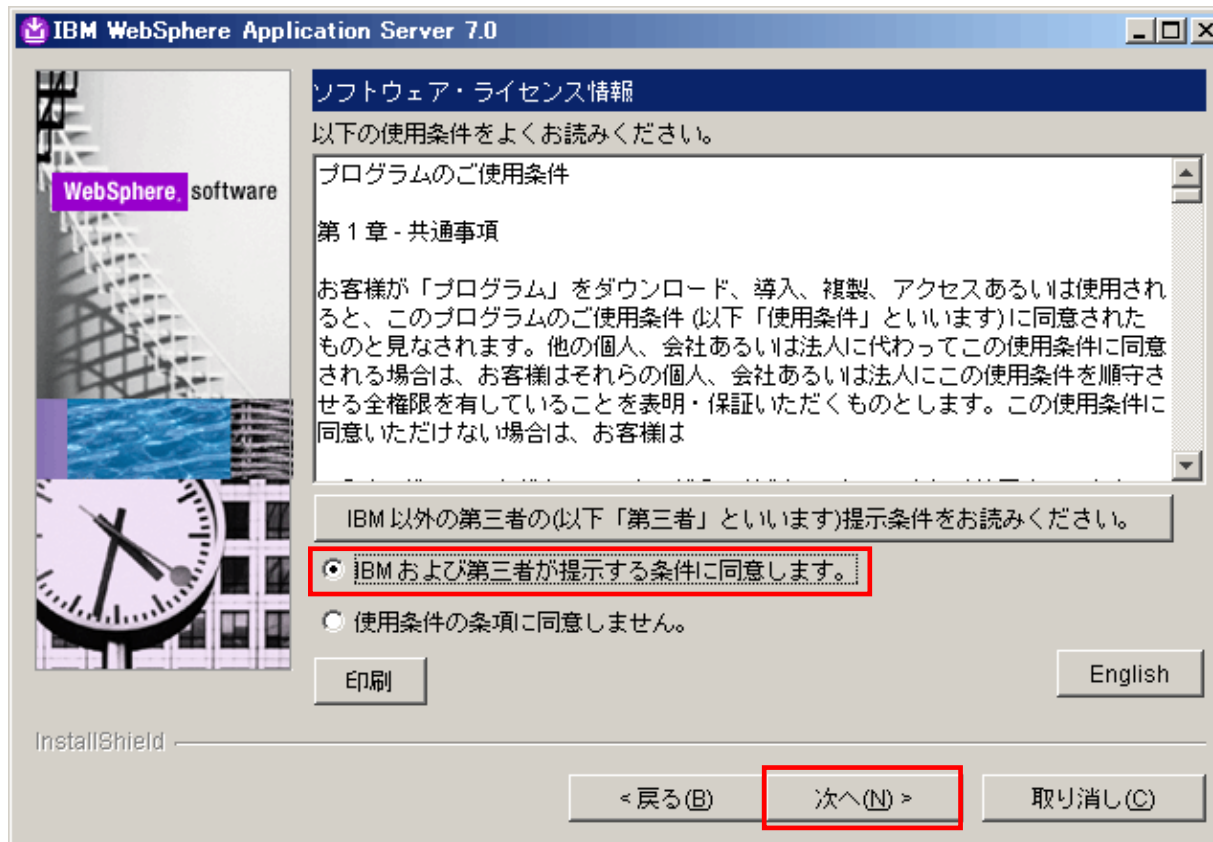
- WebSphere Application Serverのインストールウィザードを起動します。

The screenshot shows the 'WebSphere Application Server Network Deployment' installation wizard. The interface is in Japanese. On the left, a navigation pane lists various installation options, with 'WebSphere Application Server のインストール' (WebSphere Application Server Installation) highlighted in a red box. The main content area displays the title 'WebSphere Application Server Network Deployment のインストール' and a detailed introduction in Japanese. Below the introduction, there is a link 'WebSphere Application Server Network Deployment のインストール・ウィザードを起動。' (Start the WebSphere Application Server Network Deployment installation wizard), which is also highlighted in a red box. Below this link, there are two additional links: 'WebSphere Application Server Network Deployment のインストール・ガイドを表示。' (View the WebSphere Application Server Network Deployment installation guide) and 'WebSphere Application Server Network Deployment の README ファイルを表示。' (View the README file for WebSphere Application Server Network Deployment).

- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



- 以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。



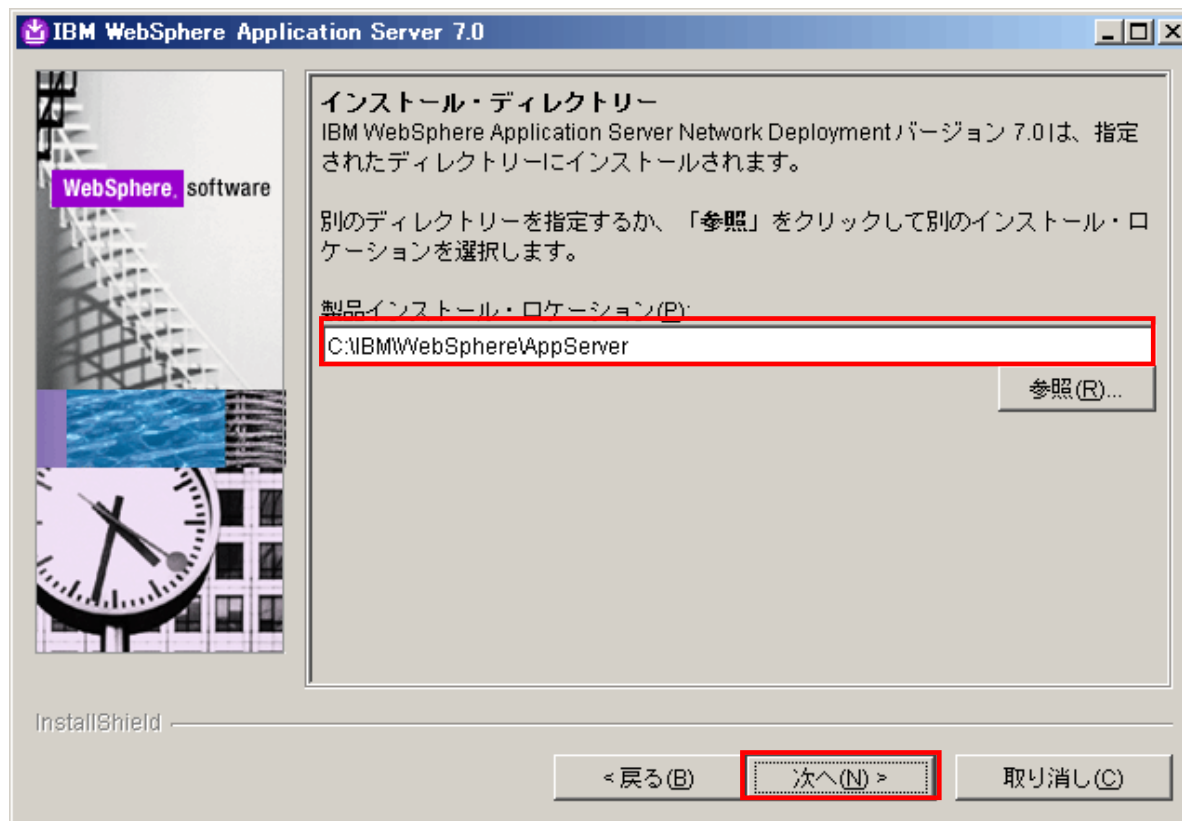
- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



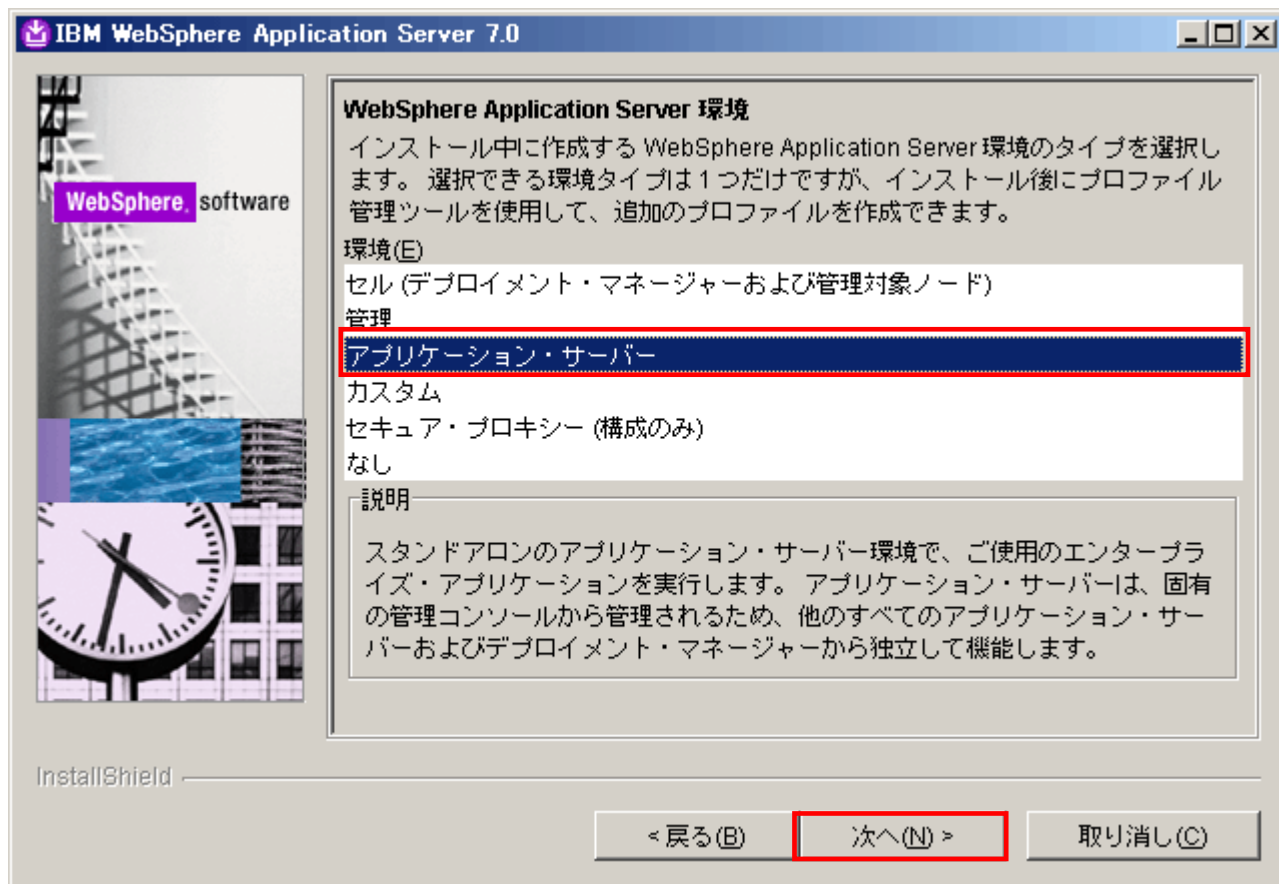
- 以下の画面が表示されます。サンプル・アプリケーションはインストールしない選択を行い、「次へ」をクリックします。



- 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。



- 以下の画面が表示されます。「アプリケーション・サーバー」を選択し、「次へ」をクリックします。



- 以下の画面に示すようにWASで使用するユーザを指定してください。

IBM WebSphere Application Server 7.0

WebSphere software

管理セキュリティを有効にする

管理セキュリティを有効にするかどうかを選択します。セキュリティを有効にするには、ユーザー名とパスワードを指定して管理ツールにログインします。管理ユーザーは、Application Server内のリポジトリに作成されます。インストールが終了すると、ユーザー、グループ、または外部リポジトリをさらに追加できます。

管理セキュリティを有効にする(E)

ユーザー名(U):
wasadmin

パスワード(P):

確認パスワード(E):

管理セキュリティの詳細については、[インフォメーション・センター](#)を参照してください。

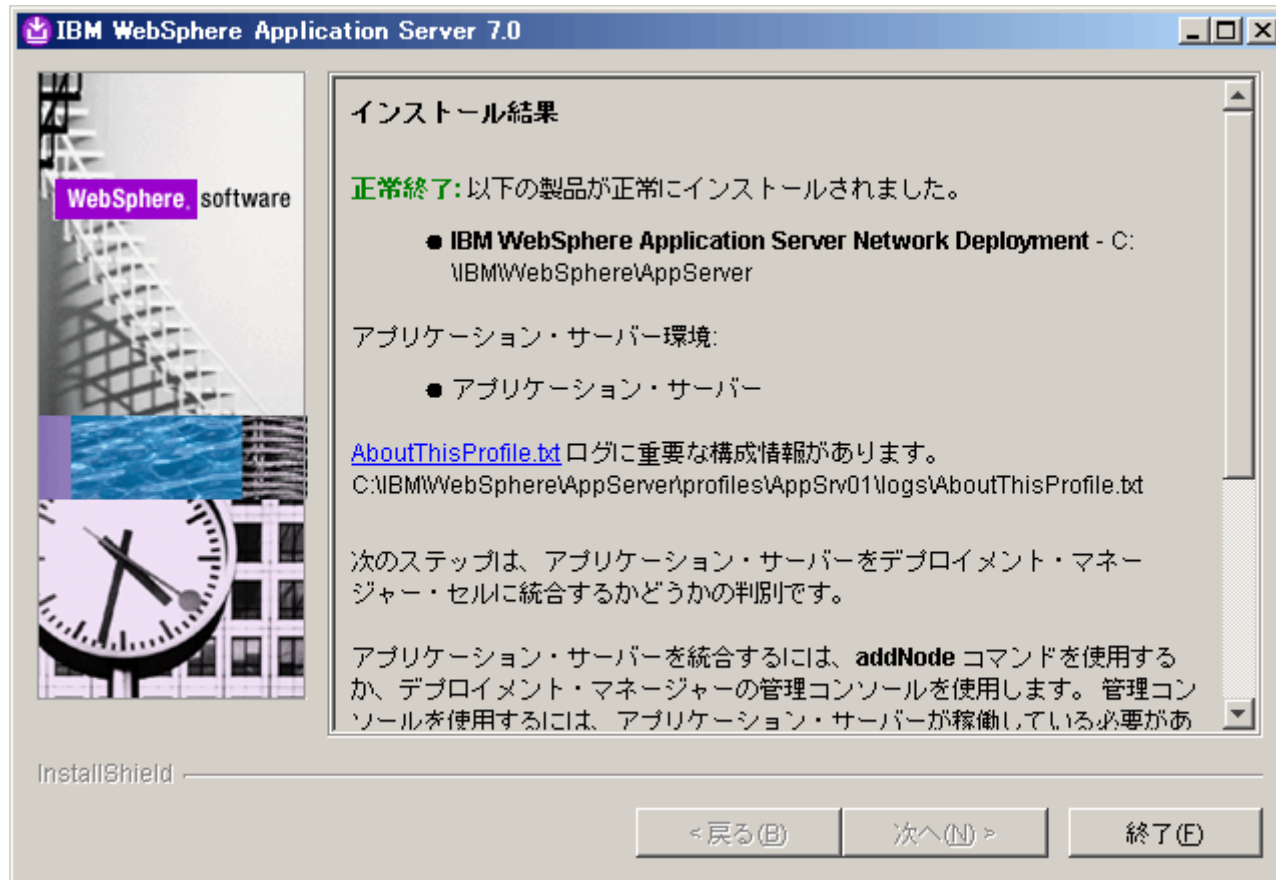
InstallShield

<戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)

- 以下の画面でモジュールの導入が開始されます。(WASの導入には数分～数十分程度かかります。)



- 以下の画面で示された、「終了」します。



HIS導入

- IBM HTTP Serverのインストールウィザードを起動します。

WebSphere Application Server Network Deployment

WebSphere. software

言語選択: 日本語

ようこそ

WebSphere Application Server のインストール

IBM HTTP Server のインストール

Web server plug-in のインストール

WebSphere DMZ Secure Proxy Server のインストール

Application Client のインストール

IBM Update Installer for WebSphere Software のインストール

IBM WebSphere Installation Factory

IBM Edge Components

IBM Support Assistant

IBM Tivoli Composite Application Manager for WebSphere Application Server

終了

IBM HTTP Server のインストール

IBM HTTP Server は、The Apache Software Foundation が開発した Apache Web サーバーを基本とした Web サーバーです。IBM HTTP Server 7.0 では、Apache の基本機能にいくつかの機能を強化しています。

IBM HTTP Server のインストール・ウィザードを起動。
インストール・ウィザードを使用して IBM HTTP Server をインストール。

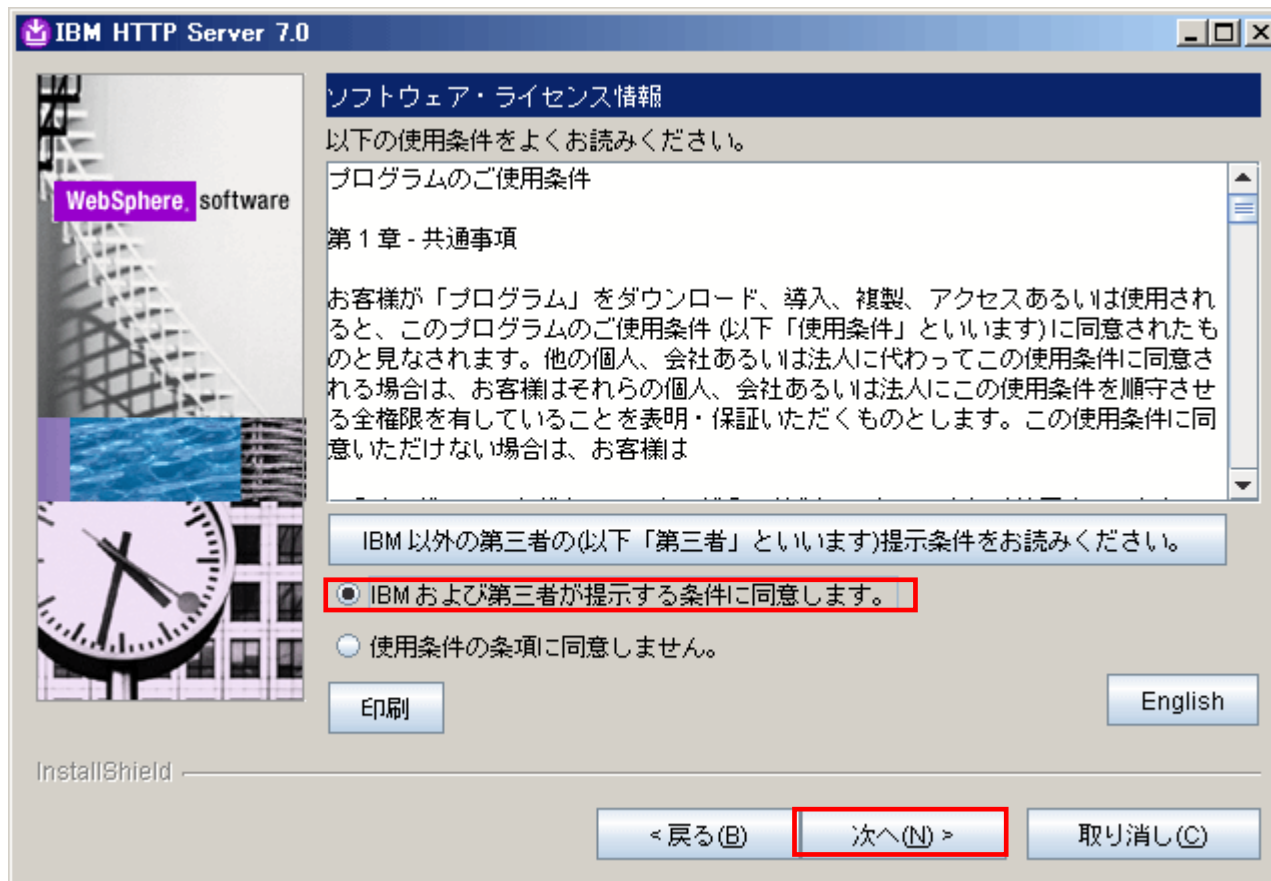
→ [IBM HTTP Server のインストール・ガイドを表示。](#)
ステップバイステップに IBM HTTP Server のインストールを説明。

→ [IBM HTTP Server の README ファイルを表示。](#)
IBM HTTP Server の最新情報へのリンクを提供。

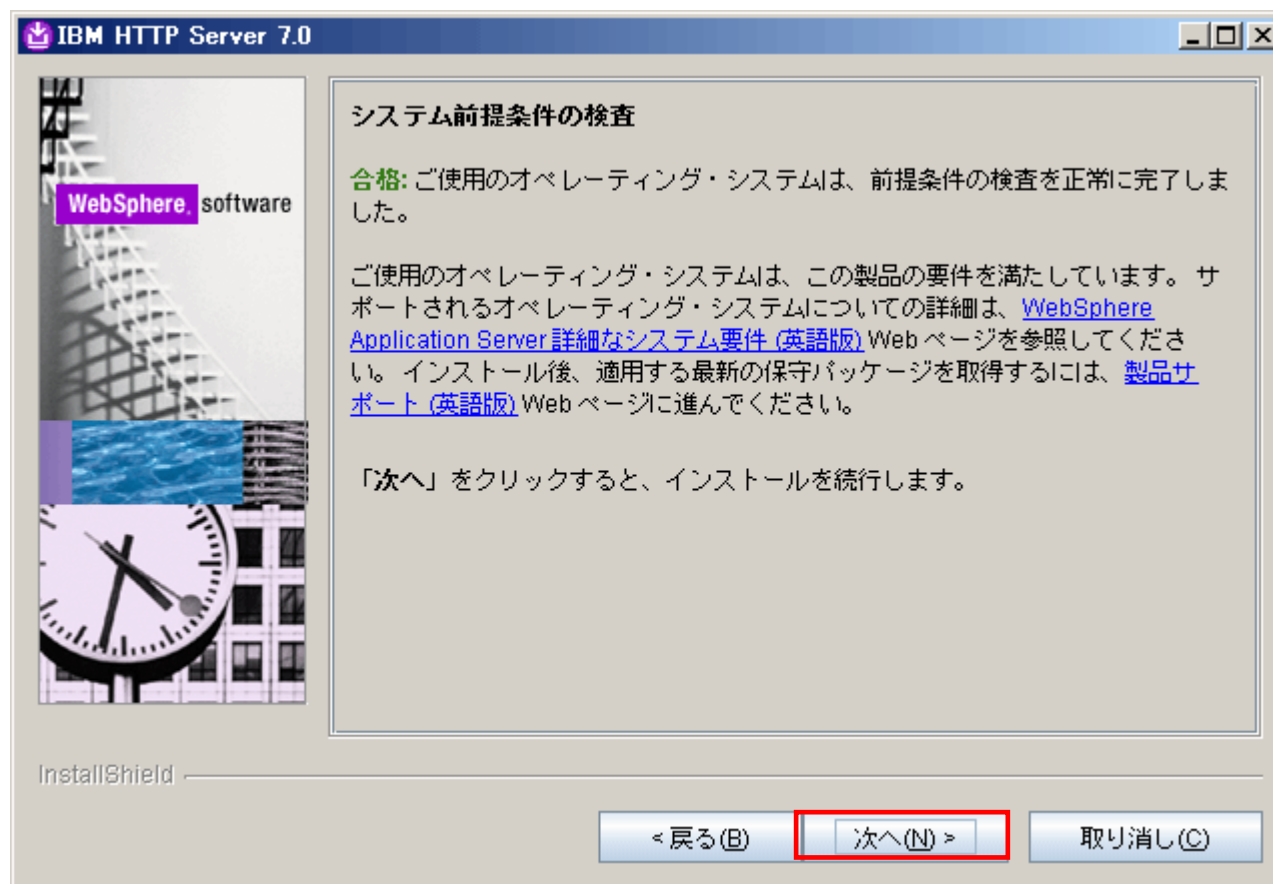
- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



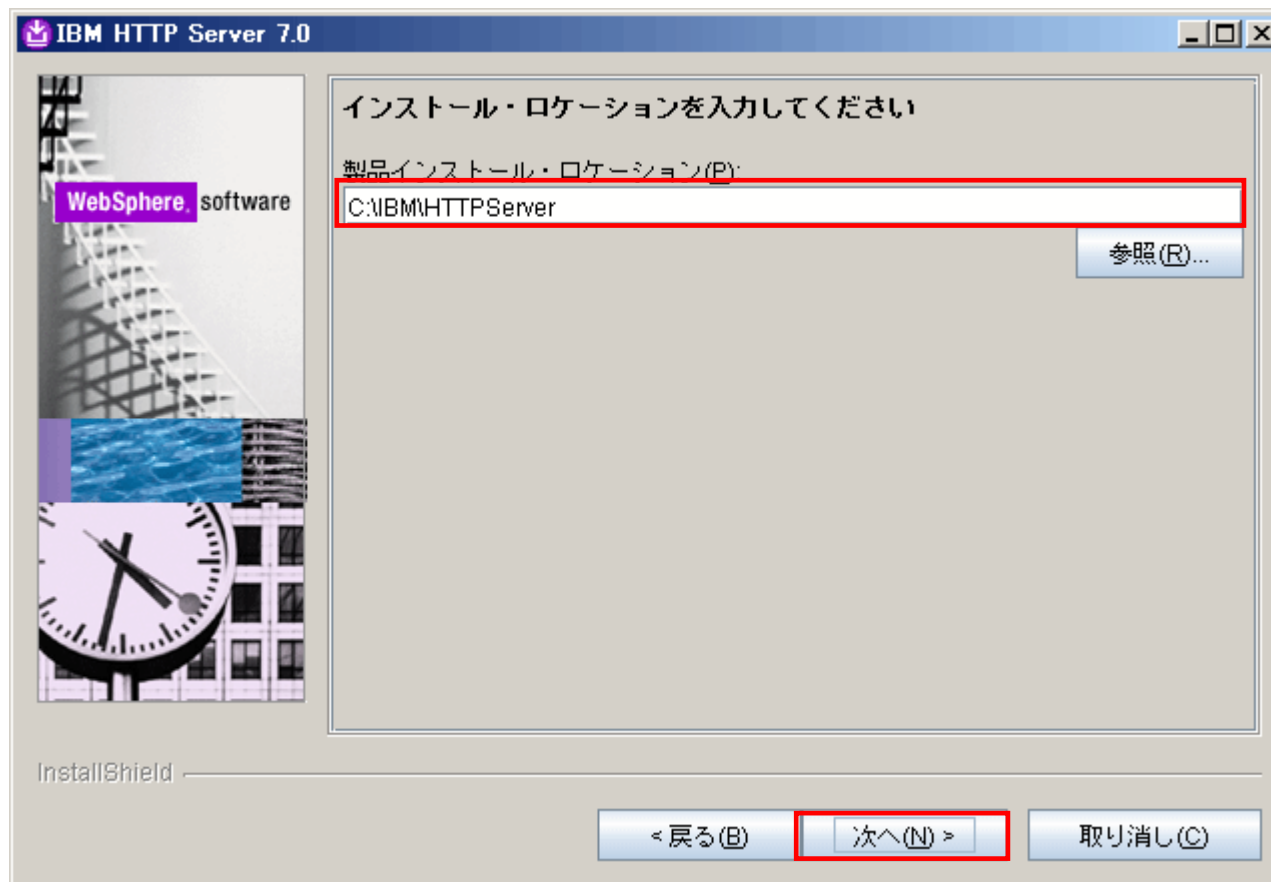
- 以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。



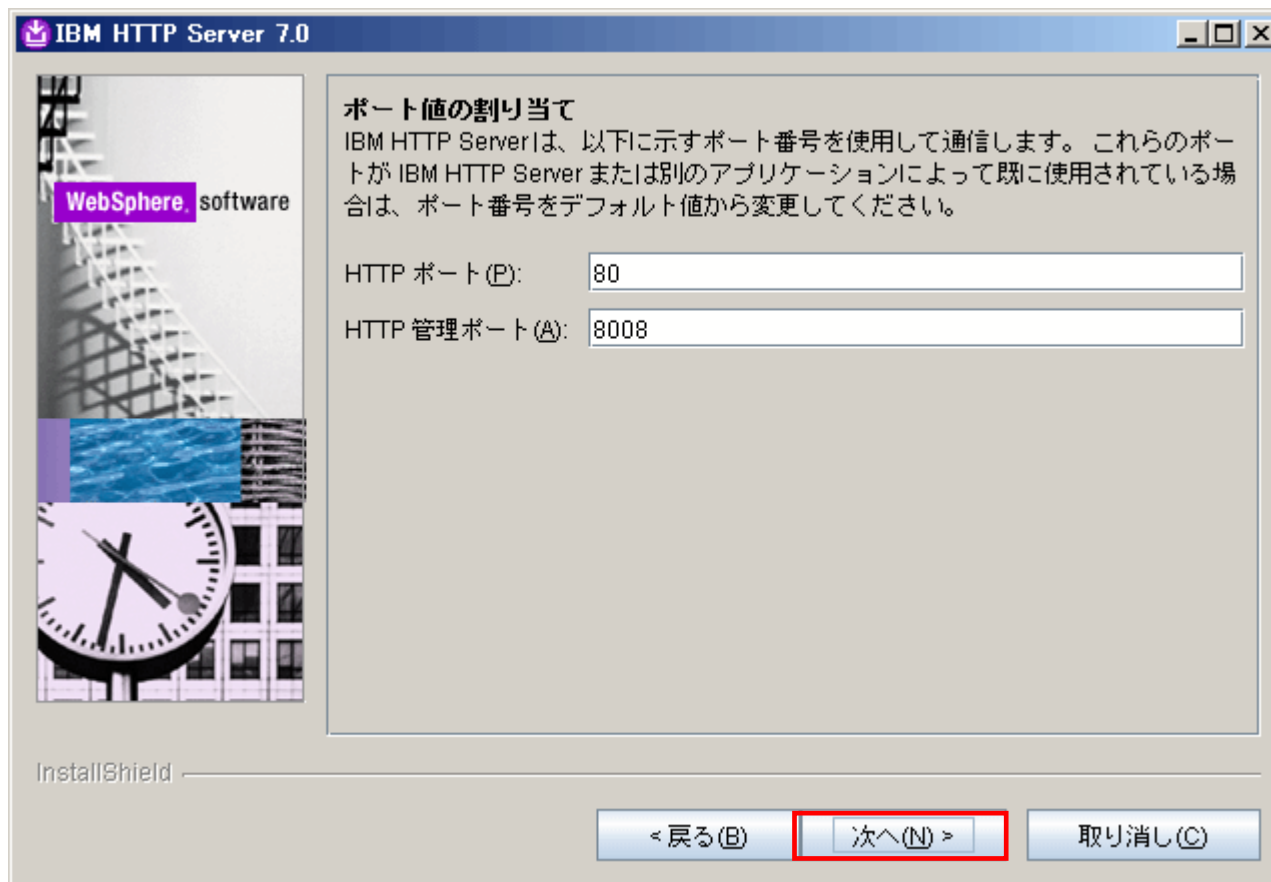
- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



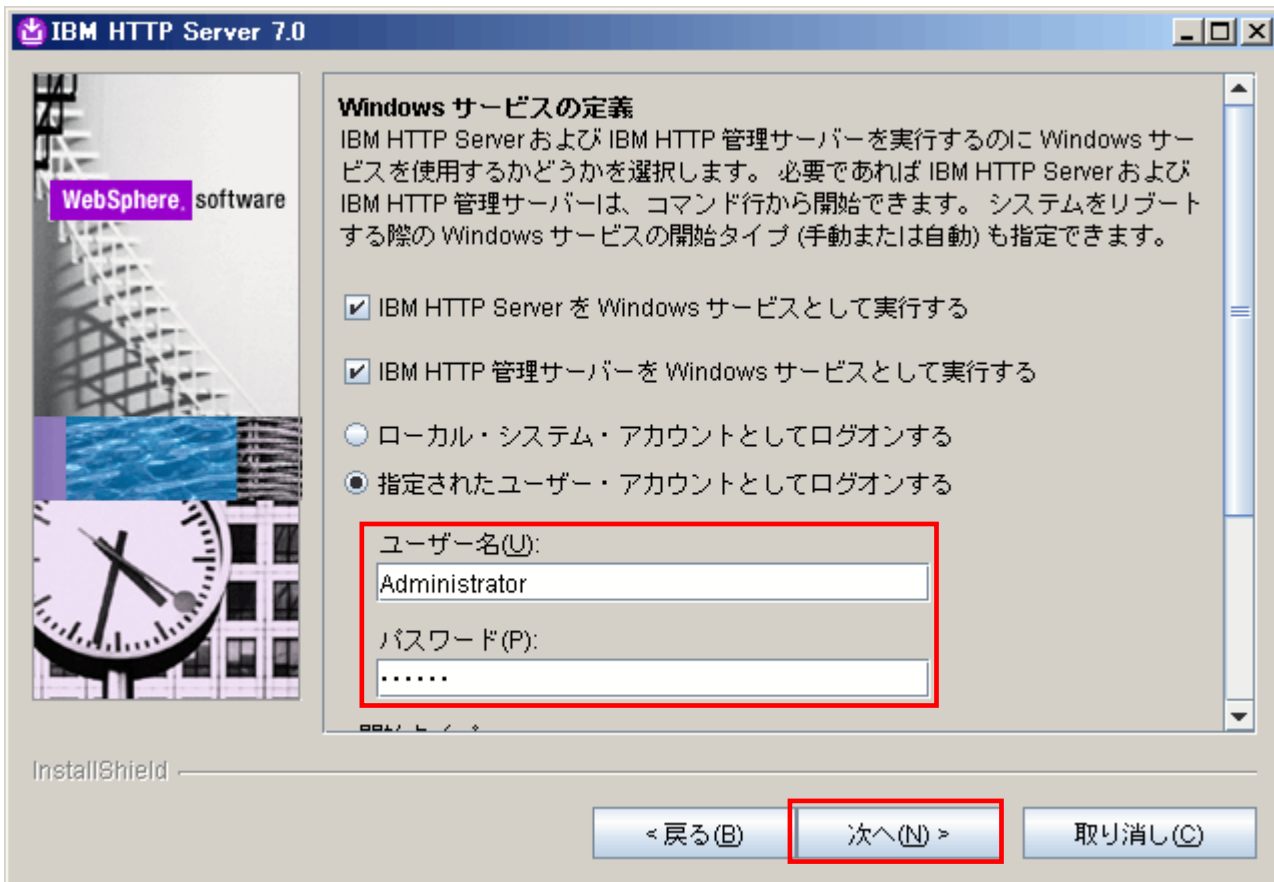
- 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。



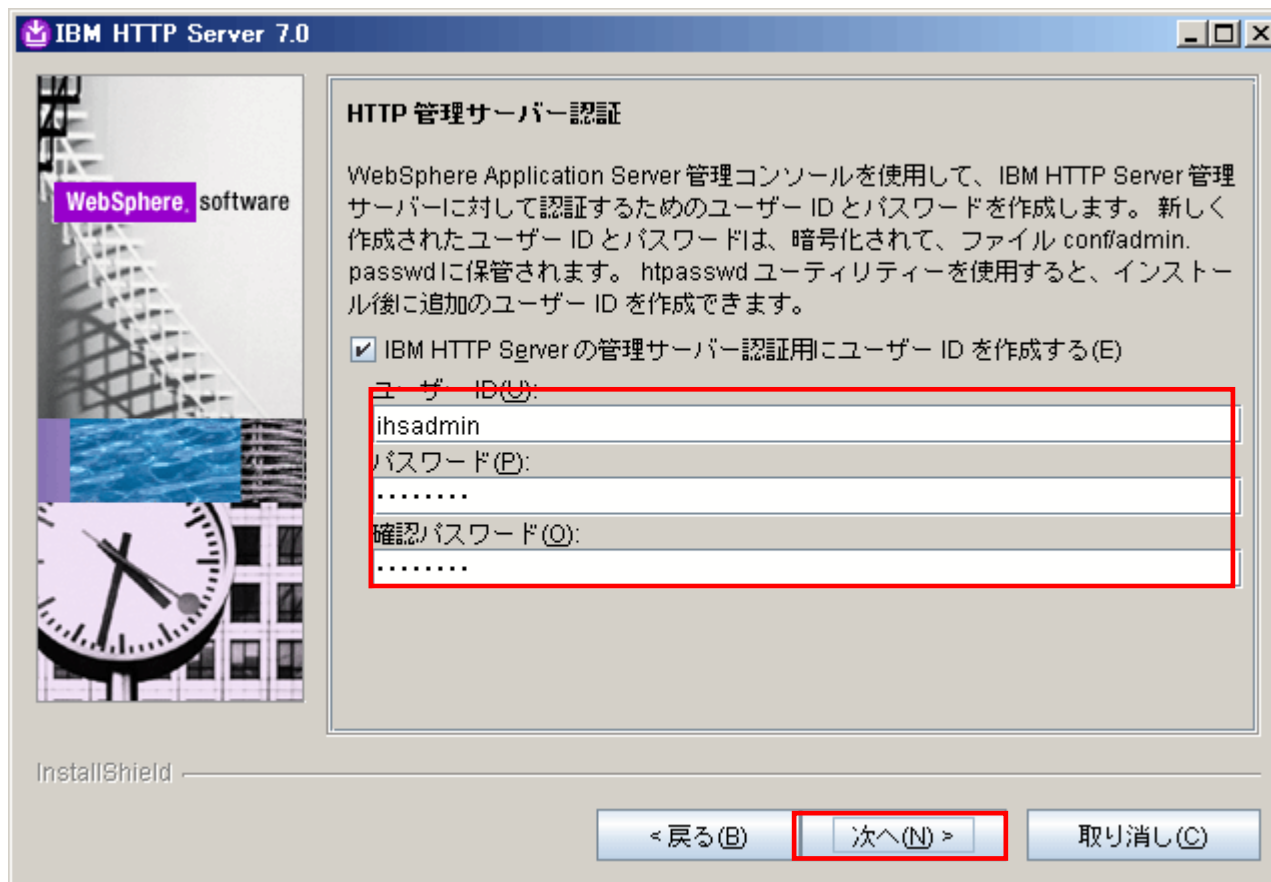
- 以下の画面に示すように使用するポートを指定してください。



- 以下の画面に示すようにHIS Windowsサービスで使用するユーザを指定してください。



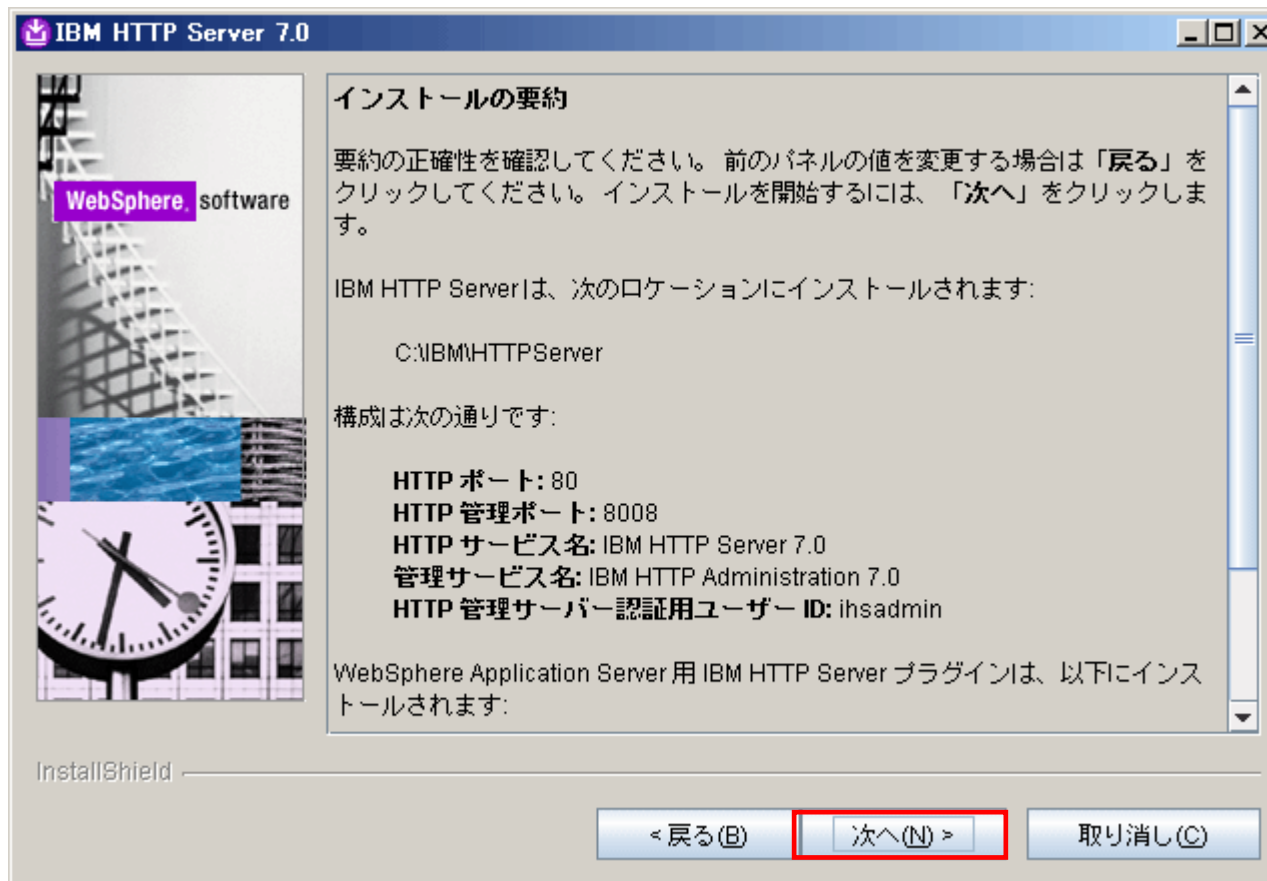
- 以下の画面に示すようにIHSで使用するユーザを指定してください。



- 以下の画面で連携するWebSphere定義を確認し、「次へ」進みます。



- 以下の画面でモジュールの導入が開始されます。

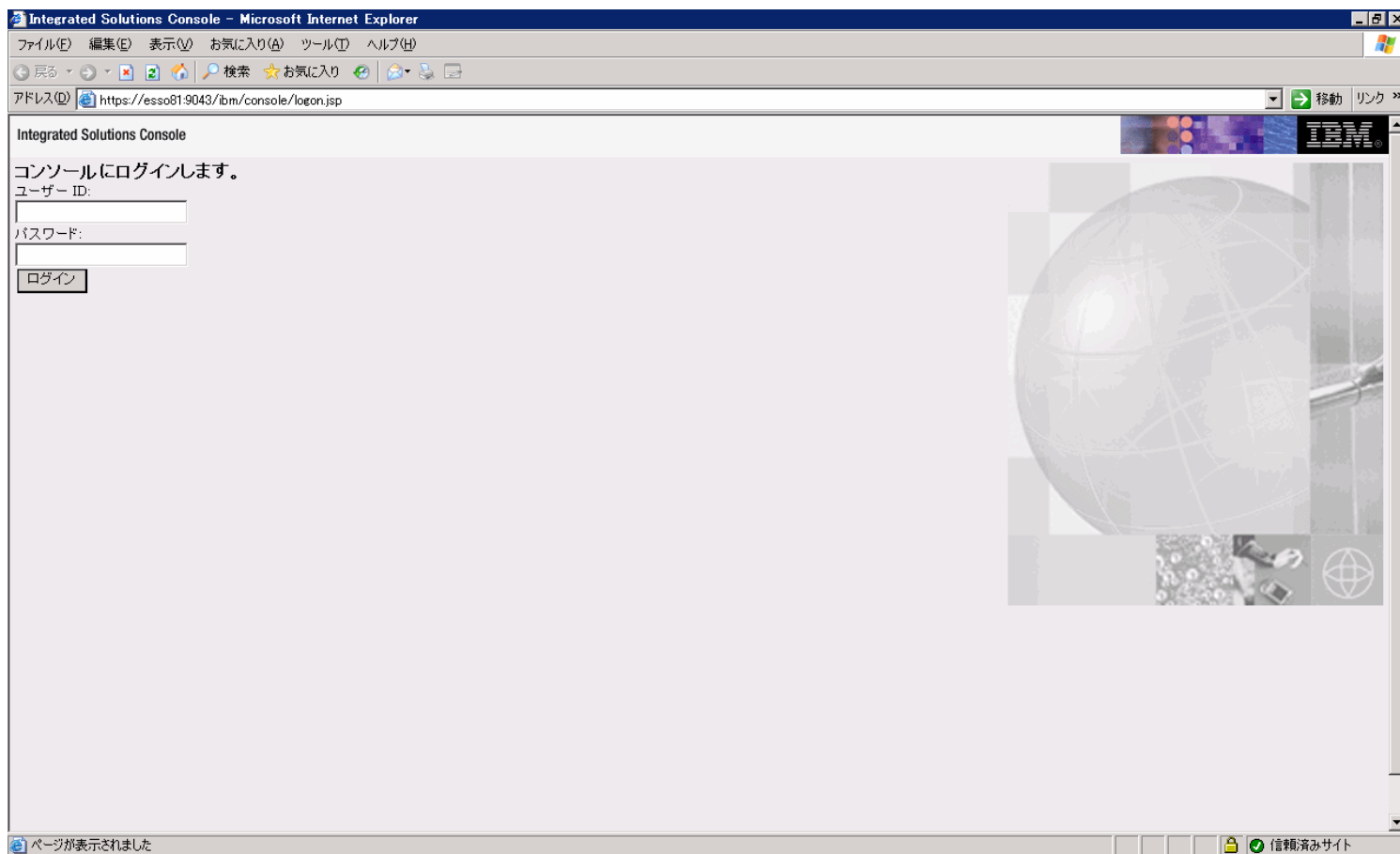


- 以下の画面で示された、「終了」します。



WebSphereセキュリティ設定

- WebSphere管理コンソールを起動



- グローバル・セキュリティ設定のアプリケーション・セキュリティを使用可能に変更する

The screenshot shows the Integrated Solutions Console (ISC) interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar shows the URL: `https://esso81-9043/lbm/console/login.do?action=secure`. The page title is "Integrated Solutions Console" and the user is logged in as "wasadmin".

The main content area is titled "グローバル・セキュリティ" (Global Security). It contains several sections:

- グローバル・セキュリティ**: A section with a description and two buttons: "セキュリティ構成ウィザード" and "セキュリティ構成報告書".
- 管理セキュリティ**: A section with a checked checkbox "管理セキュリティを使用可能にする" and links for "管理ユーザー・ロール", "管理グループ・ロール", and "管理認証".
- アプリケーション・セキュリティ**: A section with a checked checkbox "アプリケーション・セキュリティを使用可能にする", which is highlighted with a red box.
- Java 2 セキュリティ**: A section with a unchecked checkbox "Java 2 セキュリティを使用してアプリケーションのアクセスをローカル・リソースに制限する" and sub-options for application and resource access control.
- ユーザー・アカウント・リポジトリ**: A section for defining user repositories, with a dropdown menu set to "統合リポジトリ" and buttons for "構成..." and "現在値として設定".

On the right side, there is a "ヘルプ" (Help) sidebar with a "ページを開く" (Open page) button. At the bottom of the page, there is a "適用" (Apply) button and a "リセット" (Reset) button. A status bar at the very bottom indicates "ページが表示されました" (Page displayed) and "信頼済みサイト" (Trusted site).

WebSphere FixPack適用

- WebSphere、IBM HTTP Server、PluginのFixPackを適用します。

—手順記載省略—

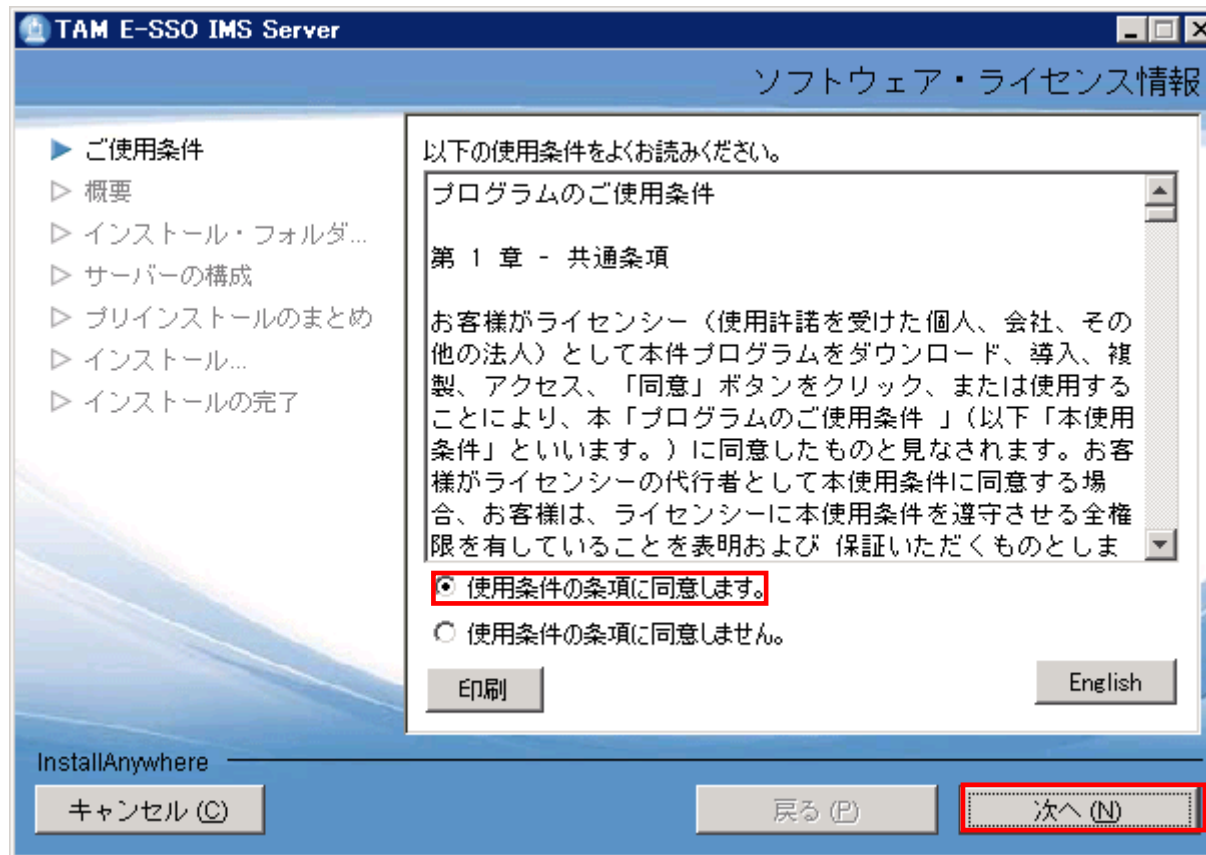


IMS Server導入

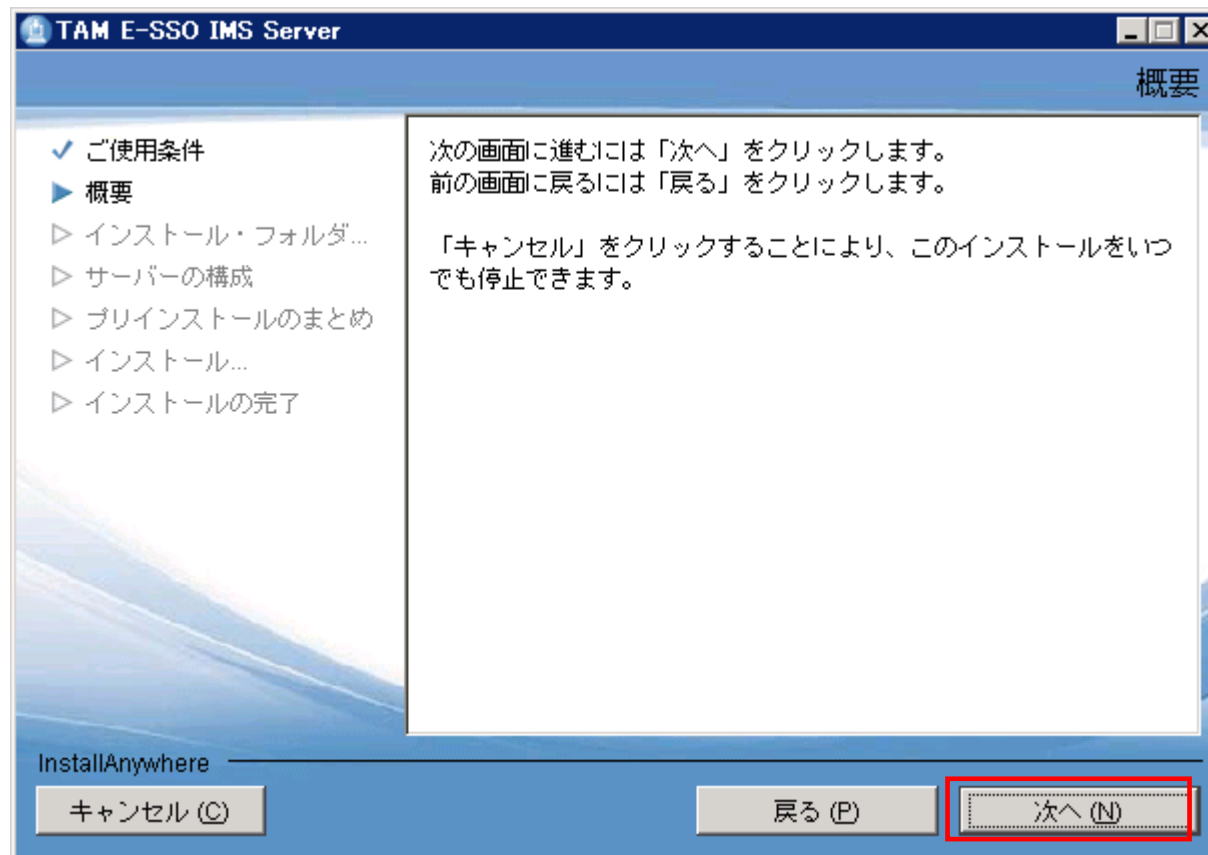
- IMS Serverのインストールウィザードを起動します。



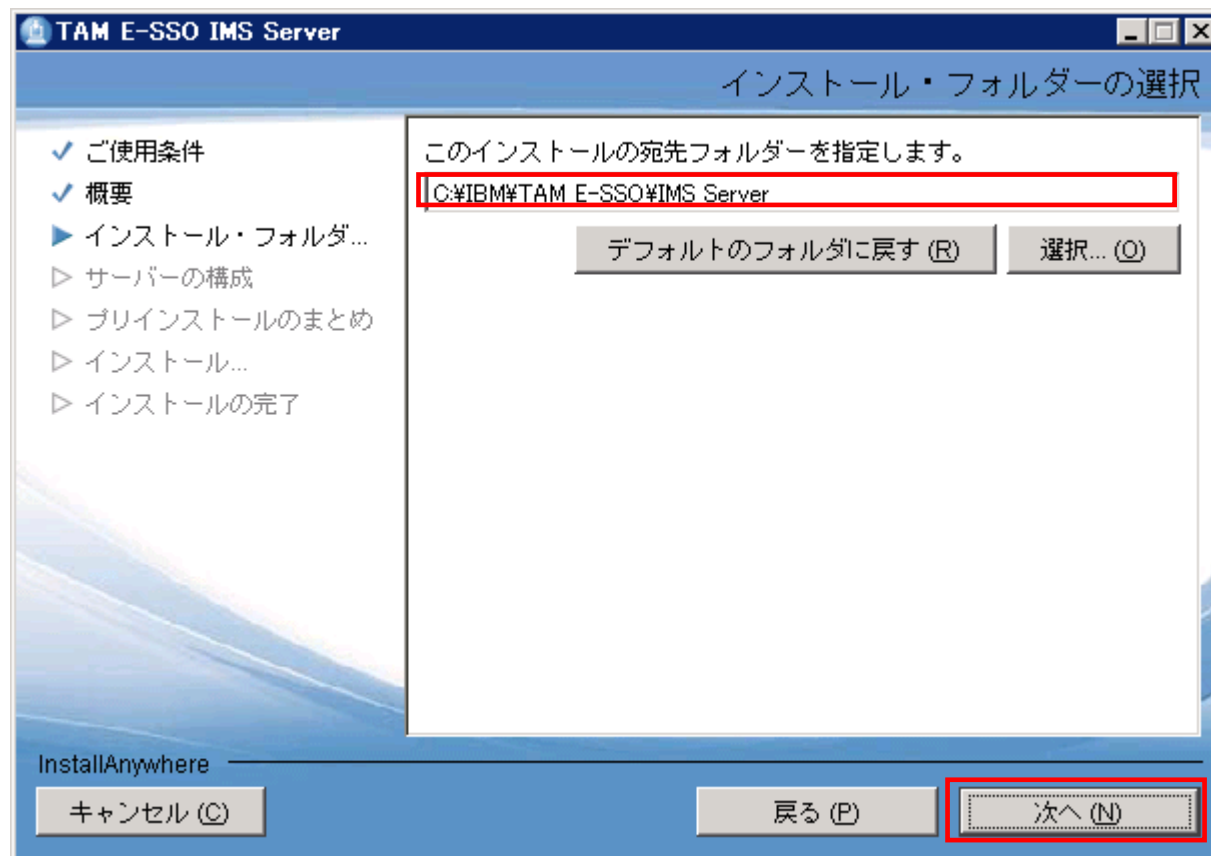
- 以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。



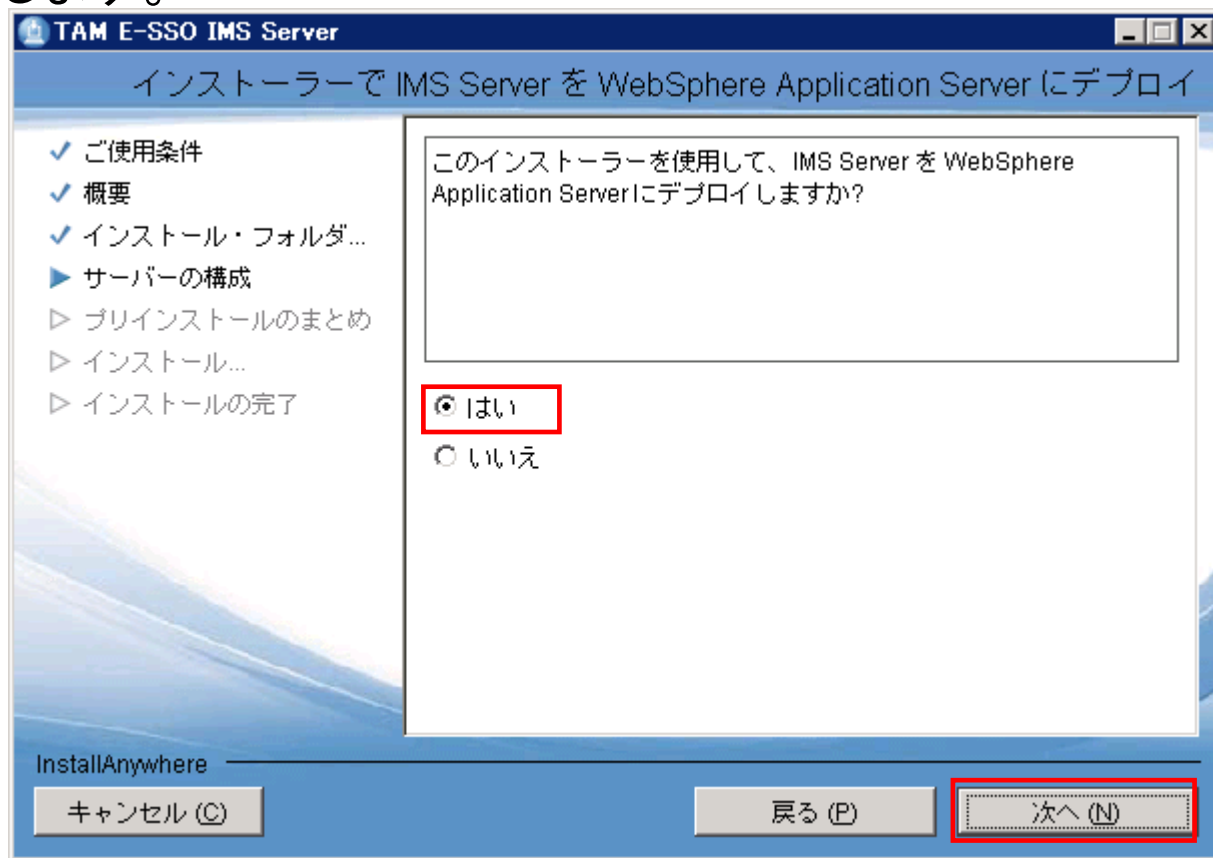
- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



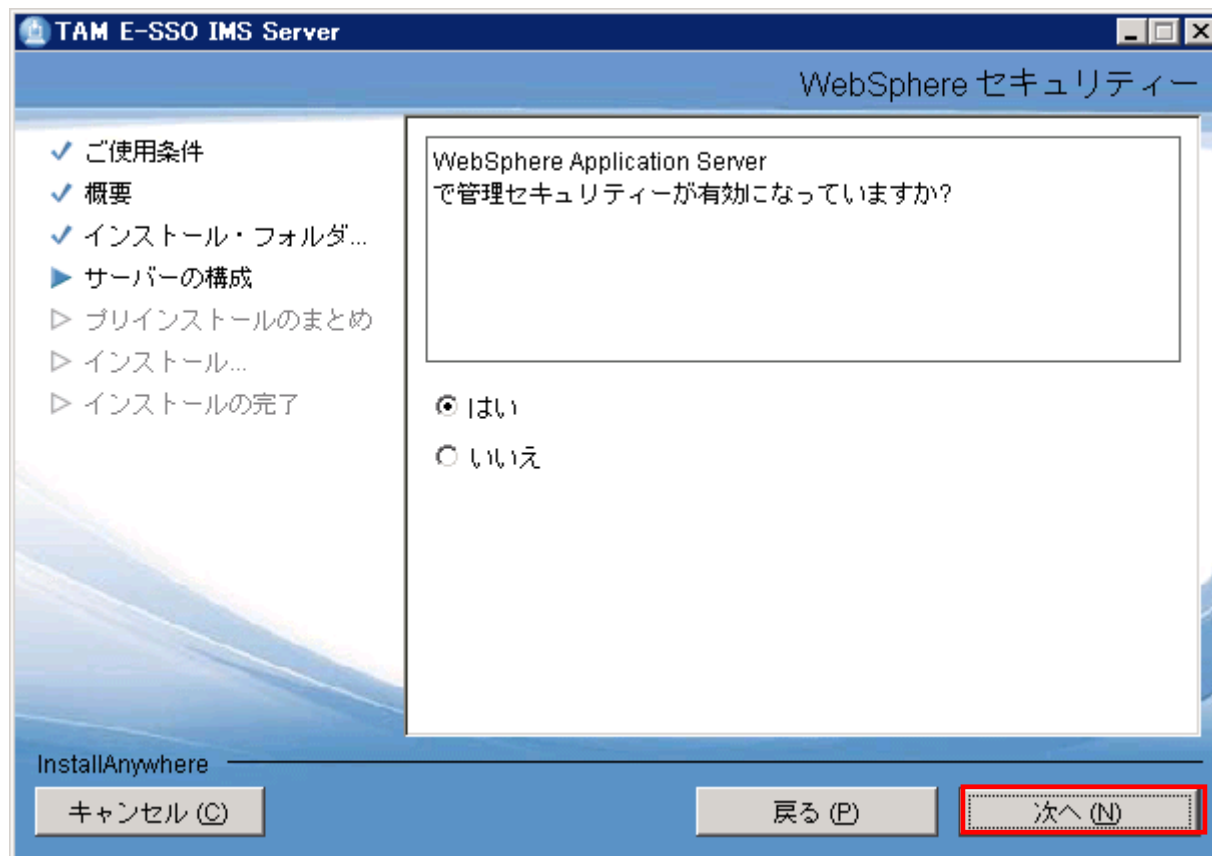
- 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。



- 以下の画面が表示されます。「デプロイする」を選択し、「次へ」をクリックします。



- 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



- 以下の画面に示すように次ページ記載の一覧を元に指定してください。

TAM E-SSO IMS Server

WebSphere Application Server 管理セキュリティ情報

- ✓ ご使用条件
- ✓ 概要
- ✓ インストール・フォルダ...
- ▶ サーバーの構成
- ▷ プリインストールのまとめ
- ▷ インストール...
- ▷ インストールの完了

管理ユーザー名 *

wasadmin

管理パスワード *

SSL トラストド Java 鍵ストア・ファイル *

C:\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\AppSrv01\config\cells\es:

デフォルトに戻す 選択... (O)

SSL トラストド鍵ストア・パスワード *

SSL Java 鍵ストア・ファイル

C:\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\AppSrv01\config\cells\es:

デフォルトに戻す 選択... (O)

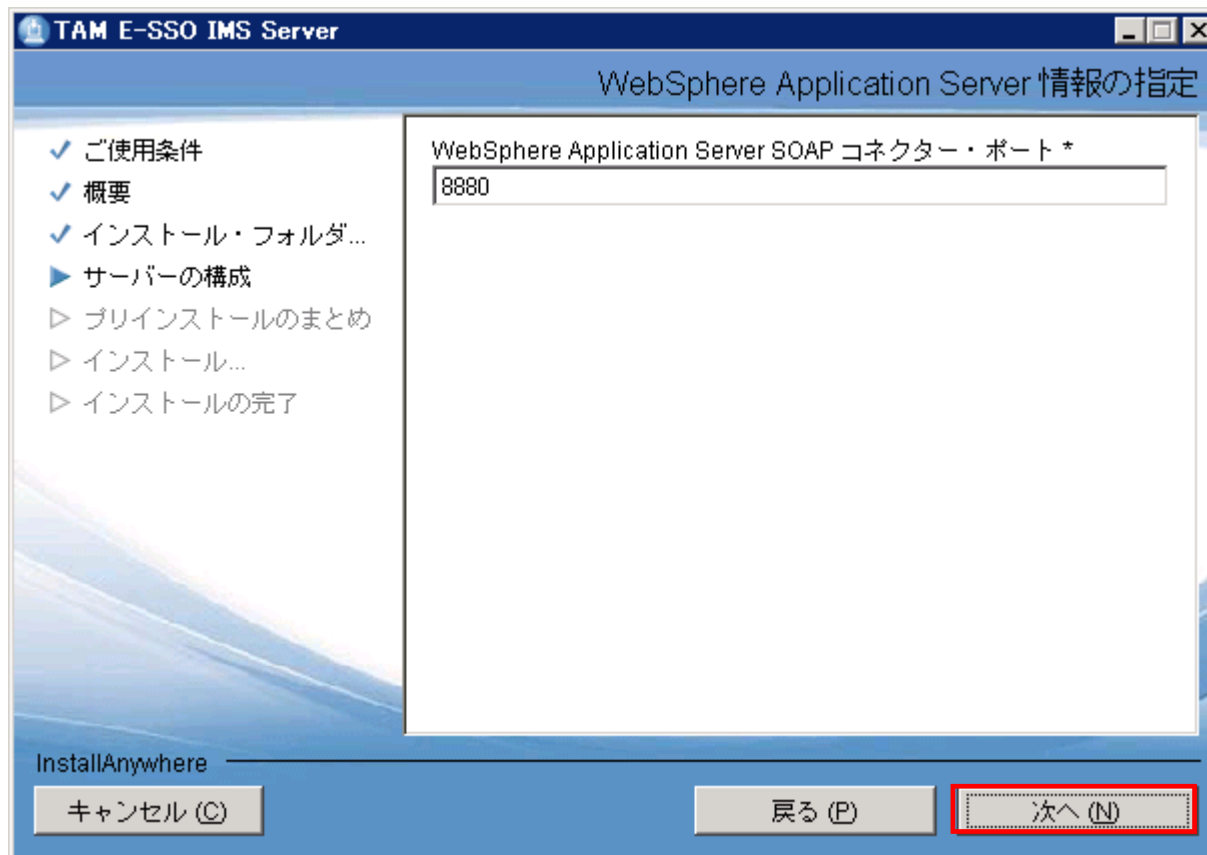
InstallAnywhere

キャンセル (C) 戻る (P) 次へ (N)

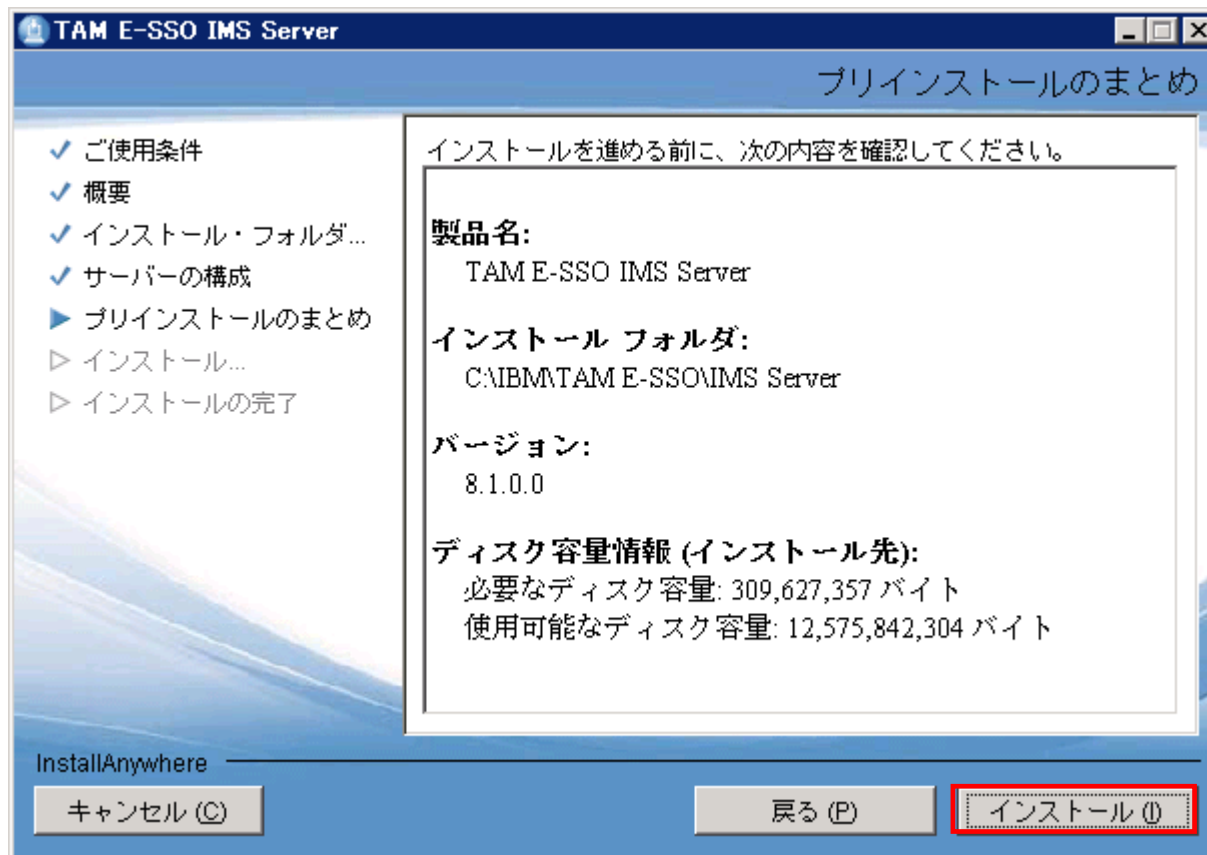
- 管理ユーザー名：
 - wasadmin (WebSphere導入時選択)
- SSLトラステッドJava鍵ストア・ファイル：
 - <WebSphere Application Server installation folder>%AppServer%profiles%<profile name>%config%cells%<cell name>%nodes%<node name>%trust.p12
- SSLトラステッド鍵ストア・パスワード：
 - WebAS
- SSL Java鍵ストア・ファイル：
 - <WebSphere Application Server installation folder>%AppServer%profiles%<profile name>%config%cells%<cell name>%nodes%<node name>%key.p12
- SSL鍵ストア・パスワード：
 - WebAS



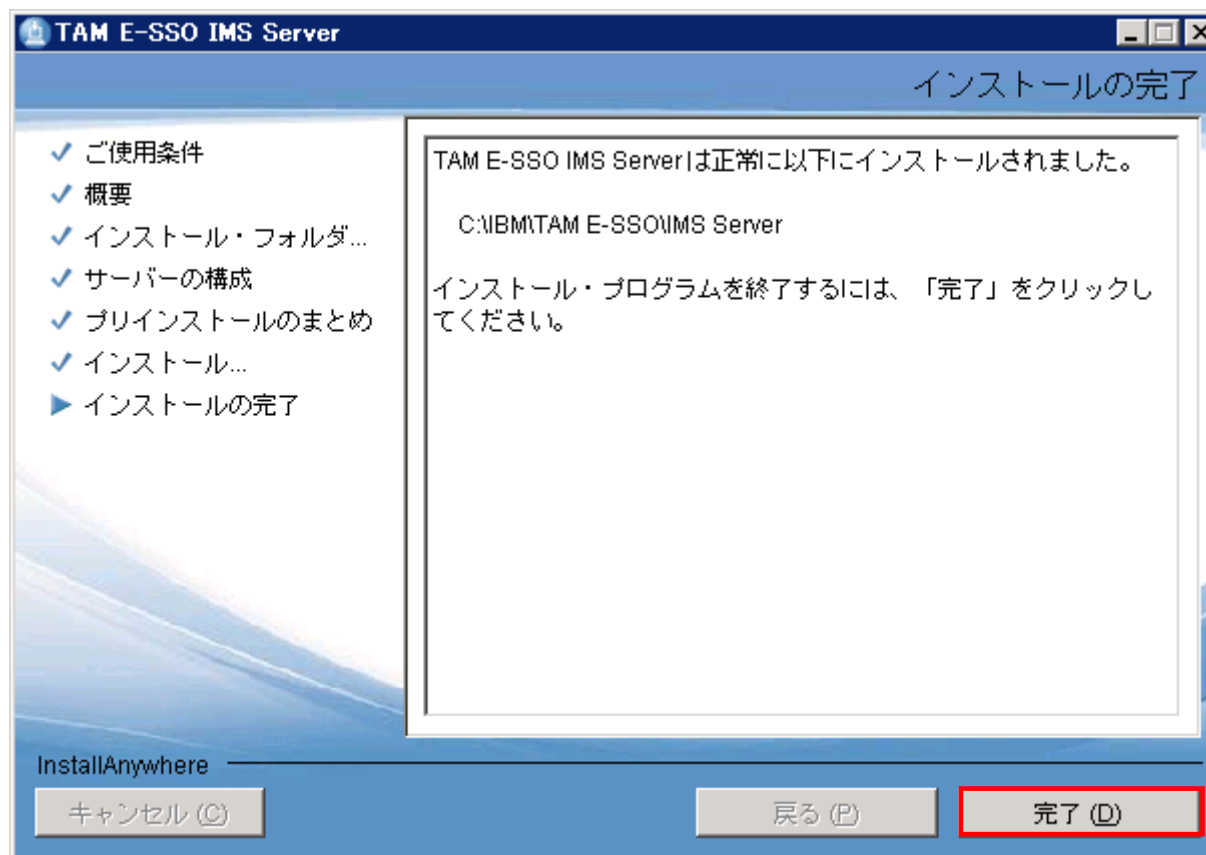
- 以下の画面が表示されます。SOAPコネクタ・ポートを指定し、「次へ」をクリックします。



- 以下の画面でモジュールの導入が開始されます。(IMS Serverの導入には数分～数十分程度かかります。)



- 以下の画面で示された、「完了」します。



IHS WebSphere連携

- configurewebserver1.batを「<IBM HTTP Server installation directory>%Plugins%bin」から「<WebSphere Application Server installation directory>%bin」へコピーし実行し、以下画面でWebSphere管理ユーザ情報を入力する。

ターゲット・サーバーでログインします

次のログイン情報を入力してください - <default>

レルム / セル名 <default>

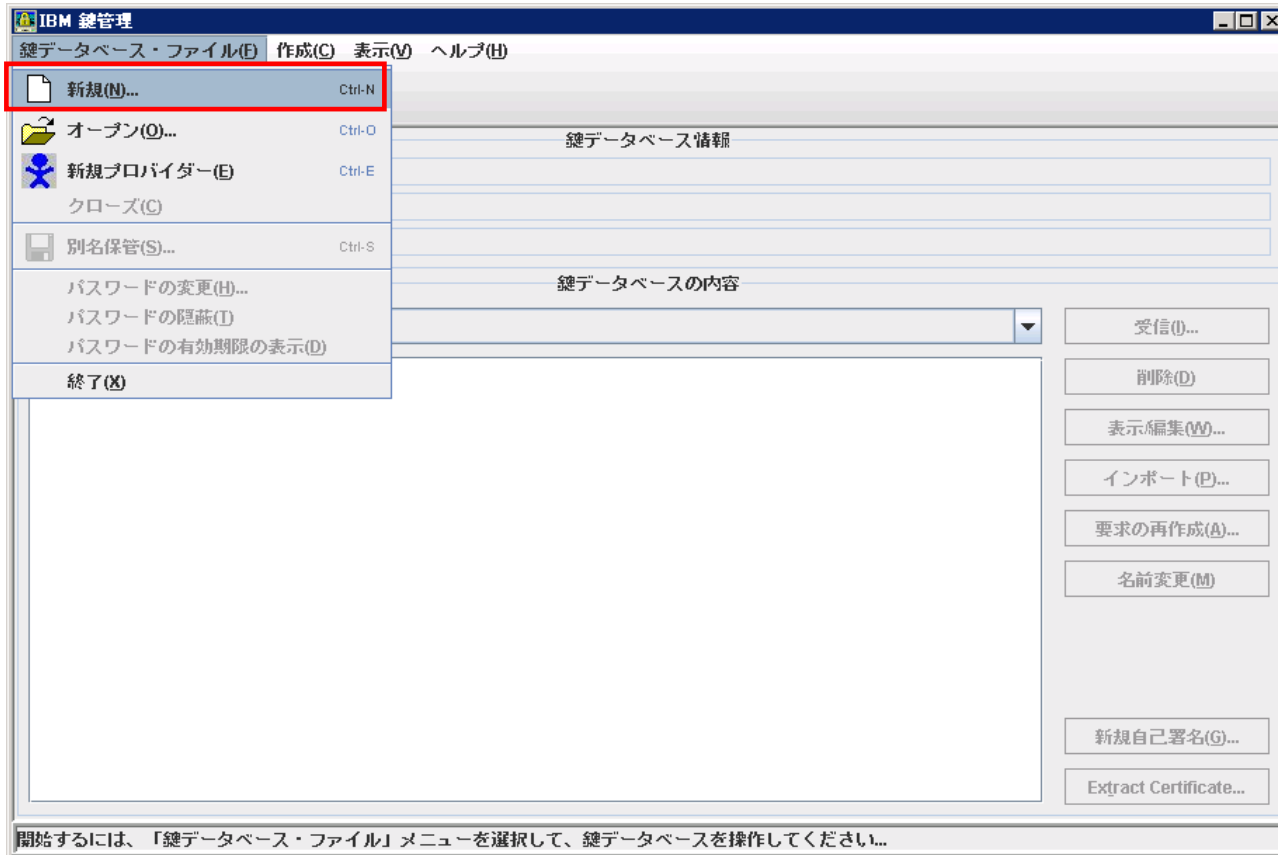
ユーザー ID wasadmin

ユーザー・パスワード *****

OK 取り消し

SSL自己証明書準備

- SSL鍵ユーティリティを使用し、証明書を作成します。



- CMS形式で、「パスワードをファイルに隠蔽」を選択し保存します。

新規

鍵データベース・タイプ(K) CMS

ファイル名(F): key.kdb 参照(B)...

場所(L): C:\IBM\HTTPServer\

OK(O) キャンセル(C)

パスワード・プロンプト

パスワード(P):

パスワードの確認(N):

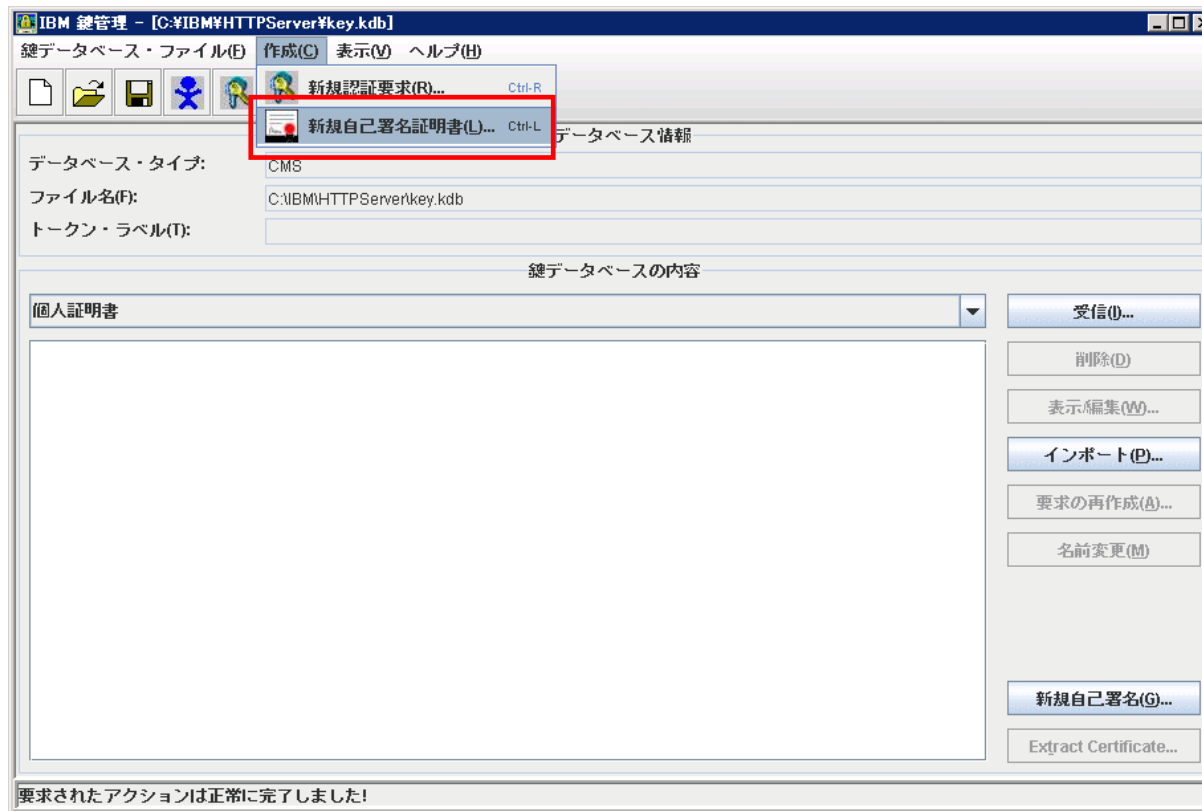
有効期限(E) 60 日(D)

パスワードをファイルに隠蔽(S)

OK(O) リセット(R) キャンセル(C)



- 「作成」-「新規自己証明書」を選択し、自己証明書を作成します。



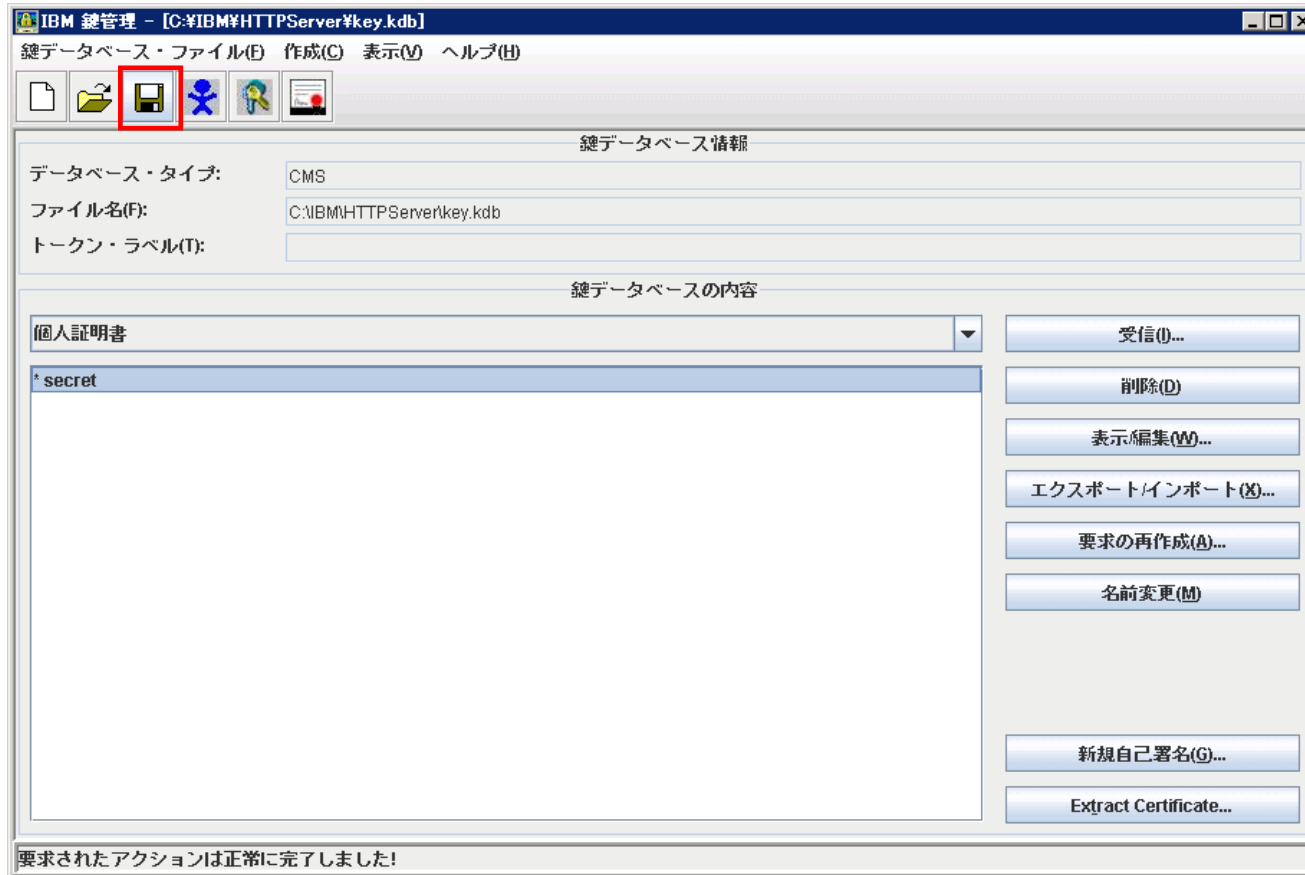
- 鍵ラベル、共通名(ホスト名)、有効期限は必ず入力し、証明書を作成します。

以下を指定してください:

鍵ラベル(K)		secret
バージョン(V)		X509 V3
鍵サイズ(E)		1024
署名アルゴリズム(S)		SHA1WithRSA
共通名(M)	(オプション)	ess081
組織(O)	(オプション)	
組織単位(A)	(オプション)	
局所性(L)	(オプション)	
都道府県(I)	(オプション)	
郵便番号(Z)	(オプション)	
国または地域(U)	(オプション)	
有効期間(I)		3650 日(D)

OK(O) リセット(R) キャンセル(C)

- 作成した鍵を上書き保管します。



- WebSphere管理コンソールから、「サーバー」-「サーバー・タイプ」-「Webサーバー」を選択します。

Integrated Solutions Console - Microsoft Internet Explorer

ヘルプ | ログアウト

セル=esso81Node01Cell, プロファイル=AppSrv01

Webサーバー

Webサーバー

このページを使用して、インストール済み Web サーバーのリストを表示します。

設定

プラグインの生成 プラグインの伝搬 新規作成 削除 テンプレート... 開始 停止 終了

選択	名前	Webサーバータイプ	ノード	ホスト名	バージョン	状況
<input type="checkbox"/>	webserv1	IBM HTTP Server	esso81Node01	esso81	ND 7.0.0.7	+

合計 1

ヘルプ

フィールドのヘルプ
フィールドのヘルプ情報を表示するには、ヘルプ・カーソル (? マーク) が表示されているときに、フィールド・ラベルからリスト・マーカーを選択します。

ページのヘルプ
[このページについての詳細情報](#)

ページが表示されました

情報済みサイト

- 「リモートWebサーバー管理」を選択します。

The screenshot shows the Integrated Solutions Console (ISC) interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar displays `https://esso81-9043/ibm/console/login.do?action=secure`. The main content area is titled "Web サーバー" and shows the configuration for "webserver1".

The configuration page includes the following sections:

- Web サーバー**: Overview and description.
- ランタイム**: Runtime configuration.
- 構成**: Configuration options, including:
 - 一般プロパティ**: General properties (Web Server Name, Type, Host Name, Port, etc.).
 - 構成設定**: Configuration settings (Web Server Alias, Global Directives, etc.).
 - 追加プロパティ**: Additional properties, where "リモート Web サーバー管理" (Remote Web Server Management) is highlighted with a red box.

The status bar at the bottom indicates "ページが表示されました" (Page displayed) and "信頼済みサイト" (Trusted Site).

- IHS導入時に指定した管理ユーザー名を指定し、「OK」を選択します。
※IHS、WAS別サーバである場合は、SSLを使用する事をお勧めします。

The screenshot shows the Integrated Solutions Console (ISC) interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar shows the URL: `https://esso81-9043/ibm/console/login.do?action=secure`. The page title is "Integrated Solutions Console ようこそ wasadmin". The main content area is titled "Web サーバー" and shows the configuration for a "Remote Web Server". The "構成" (Configuration) section includes the following fields:

- * ポート: 8008
- * ユーザー名: lhsadmin (highlighted with a red box)
- * パスワード: ***** (highlighted with a red box)

Below these fields, there is a checkbox for "SSL の使用" (Use SSL) which is currently unchecked. At the bottom of the configuration area, there are three buttons: "適用" (Apply), "OK" (highlighted with a red box), and "リセット" (Reset). There is also a "取り消し" (Cancel) button.

The left sidebar contains a navigation menu with the following items:

- 表示: すべてのタスク
- ようこそ
- ガイド付きアクティビティ
- サーバー
 - サーバータイプ
 - WebSphere Application Server
 - WebSphere MQ サーバー
 - Web サーバー
- アプリケーション
- サービス
- リソース
- セキュリティ
- 環境
- システム管理
- ユーザーおよびグループ
- モニターおよびチューニング
- トラブルシューティング
- サービス統合
- UDDI

The right sidebar contains a "ヘルプ" (Help) section with the following text:

フィールドのヘルプ
フィールドのヘルプ情報を表示するには、ヘルプアイコン(? マーク)が表示されているときに、フィールドラベルからリストマーカーを選択します。

ページのヘルプ
[このページについての詳細情報](#)

- 「プラグイン・プロパティ」を選択します。

The screenshot shows the IBM Integrated Solutions Console interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar displays `https://esso81-9043/ibm/console/login.do?action=secure`. The main content area is titled "Web サーバー" and shows configuration details for a "Web サーバ" named "webserver1".

The configuration is divided into two columns:

- 一般プロパティ (General Properties):**
 - Web サーバー名: webserver1
 - タイプ: IBM HTTP Server
 - ホスト名: esso81
 - ポート: 80
 - Web サーバーのインストール・ロケーション: C:/IBM/HTTPServer
 - 構成ファイル名: C:\IBM\HTTPServer\conf\httpd.conf
 - サービス名: IBMHTTPServer7.0
 - プラットフォーム・タイプ: Windows
- 構成設定 (Configuration):**
 - Web サーバー仮想ホスト
 - グローバル・ディレクティブ
 - 追加プロパティ:
 - ログ・ファイル
 - 構成ファイル
 - プラグイン・プロパティ** (highlighted with a red box)
 - リセット Web サーバー管理
 - カスタム・プロパティ
 - ポート

At the bottom of the configuration area, there are buttons for "適用" (Apply), "OK" (highlighted with a red box), "リセット" (Reset), and "取り消し" (Cancel).

On the right side, there is a "ヘルプ" (Help) section with links for "フィールドのヘルプ" (Field Help), "ページのヘルプ" (Page Help), and "コマンド支援" (Command Support).

- 「構成ファイル」を選択します。

The screenshot shows the Integrated Solutions Console (ISC) interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar shows the URL: `https://esso81-9043/ibm/console/login.do?action=secure`. The page title is "Integrated Solutions Console" and the user is logged in as "wasadmin".

The main content area displays the configuration page for a "Web サーバー" (Web Server) named "webserver1". The page is titled "Web サーバー > webserver1" and contains the following information:

- Web サーバー名:** webserver1
- タイプ:** IBM HTTP Server
- ホスト名:** esso81
- ポート:** 80
- Web サーバーのインストール・ロケーション:** C:/IBM/HTTPServer
- 構成ファイル名:** C:/IBM/HTTPServer/conf/httpd.conf (with an "編集" button)
- サービス名:** IBMHTTPServer7.0
- プラットフォーム・タイプ:** Windows

On the right side of the configuration page, there is a "構成設定" (Configuration Settings) section with a list of links:

- Web サーバー仮想ホスト
- グローバル・ディレクティブ
- 追加プロパティ
- ログ・ファイル
- 構成ファイル** (highlighted with a red box)
- プラットフォーム・タイプ
- リモート Web サーバー管理
- カスタム・プロパティ
- ポート

On the left side of the console, there is a navigation menu with various categories like "ようこそ", "ガイド付きアクティビティ", "サーバー", "アプリケーション", "サービス", etc. The "構成ファイル" link is highlighted with a red box.

- 以下画面で、次ページの内容を追記します。

Integrated Solutions Console - Microsoft Internet Explorer

アドレス: https://esso819043/ibm/console/login.do?action=secure

Integrated Solutions Console ようこそ wasadmin ヘルプ ログアウト IBM

表示: すべてのタスク

- ようこそ
- ガイド付きアクティビティ
- サーバー
 - サーバータイプ
 - WebSphere Application Server
 - WebSphere MQ サーバー
 - Web サーバー
- アプリケーション
- サービス
- リソース
- セキュリティ
- 環境
- システム管理
- ユーザーおよびグループ
- モニターおよびチューニング
- トラブルシューティング
- サービス統合
- UDDI

```
# error log. No records are written while the server is idle.
LoadModule mpmstats_module modules/debug/mod_mpmstats.so
<IfModule mod_mpmstats.c>
# Write a record every 10 minutes (if server isn't idle).
# Recommendation: Lower this interval to 60 seconds, which will
# result in the error log growing faster but with more accurate
# information about server load.
ReportInterval 600
# Include details of active module in the statistics.
TrackModules On
</IfModule>

# mod_net_trace will record actual data sent/received from the client
# and on proxy connections, even for SSL connections. Unlike an IP
# trace, interaction with the platform network APIs can be seen.
# The following example configuration can be activated by uncommenting
# the LoadModule directive.
#LoadModule net_trace_module modules/debug/mod_net_trace.so
<IfModule mod_net_trace.c>
NetTraceFile logs/nettrace.log
NetTrace client * dest file event senddata=65535 event rcvdata=65535
</IfModule>

LoadModule was_ap22_module "C:\IBM\HTTPServer\Plugins\bin\mod_was_ap22_http.dll"
WebSpherePluginConfig "C:\IBM\HTTPServer\Plugins\config\webserv1\plugin-cfg.xml"

LoadModule ibm_ssl_module modules/mod_ibm_ssl.so
Listen 0.0.0.0:443
## IPv6 support:
#Listen [::]:443
<VirtualHost *:443>
SSLEnable
SSLProtocolDisable SSLv2
SSLServerCert secret
</VirtualHost>
KeyFile "C:\IBM\HTTPServer\key.kdb"
SSLDisable
```

適用 OK リセット 取り消し

ヘルプ

フィールドのヘルプ
フィールドのヘルプ情報を表示するには、ヘルプ・カーソル (?マーク) が表示されているときに、フィールド・ラベルからリスト・マーカーを選択します。

ページのヘルプ
このページについての詳細情報は、[このページについての詳細情報](#)

ページが表示されました

情報済みサイト

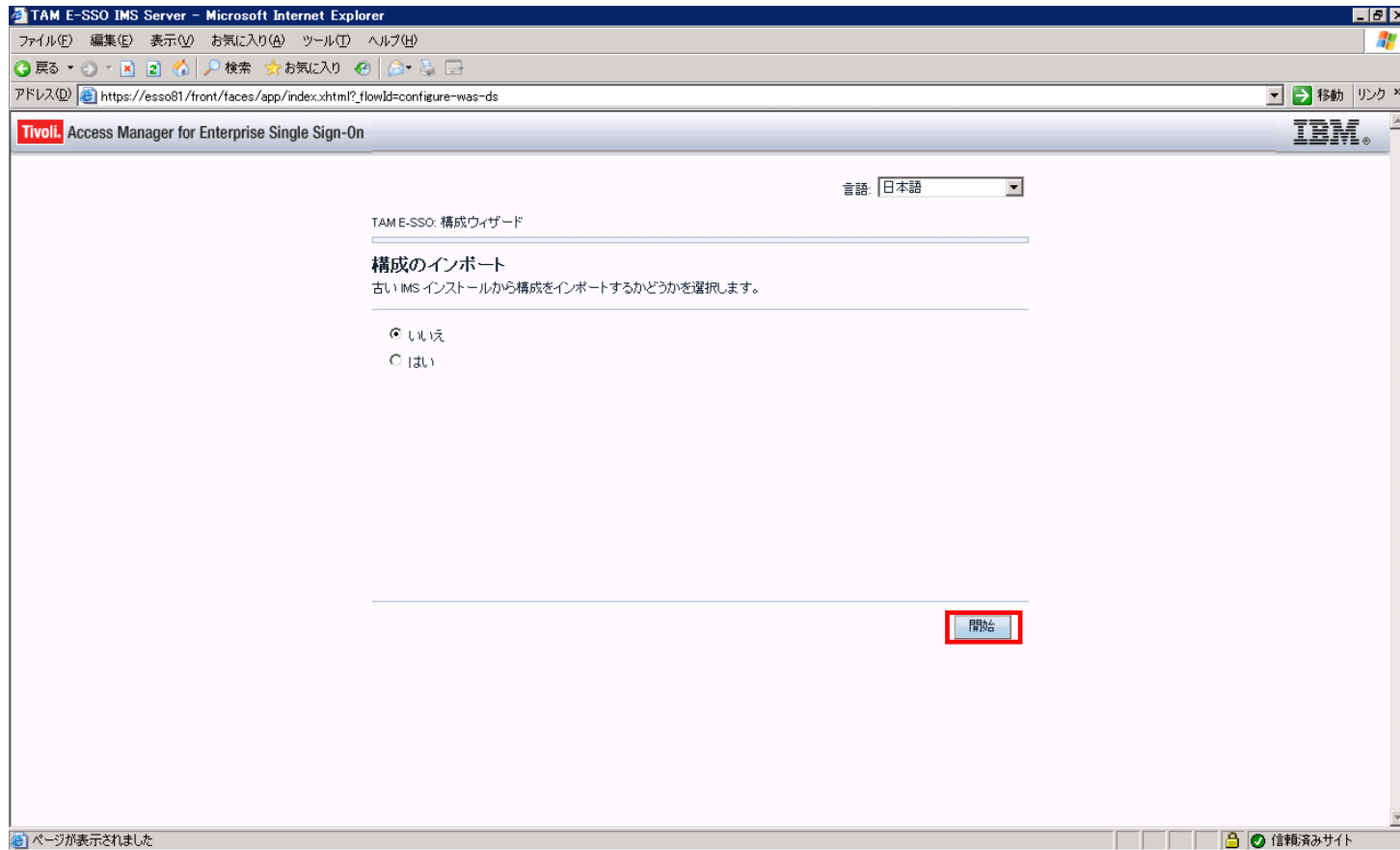
```
LoadModule ibm_ssl_module modules/mod_ibm_ssl.so
Listen 0.0.0.0:443
## IPv6 support:
#Listen [::]:443
<VirtualHost *:443>
SSLEnable
SSLProtocolDisable SSLv2
SSLServerCert <alias of the IBM HTTP Server SSL certificate>
</VirtualHost>
KeyFile "<absolute path of the plugin-key.kdb file>"
SSLDisable
```

- <alias of the IBM HTTP Server SSL certificate>:
 - 鍵作成時のラベル名
- <absolute path of the plugin-key.kdb file>:
 - 作成した鍵のファイル



IMS Server Configuration

- `https://<imsserver>/ims/`にアクセスし、構成ウィザードを起動。



- 以下の画面でデータ・ソース情報を入力し、「次へ」進みます。

TAM E-SSO IMS Server - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り 移動 リンク

アドレス(A) https://esso81/front/faces/app/wizards/configureWasDs/begin.xhtml

Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On IBM

言語: 日本語

TAM E-SSO: 構成ウィザード

データ・ソース情報の入力

データ・ソースの構成値を設定します。

JDBC プロバイダー名
TAM E-SSO JDBC Provider

データ・ソース名
TAM E-SSO IMS Server Data Source

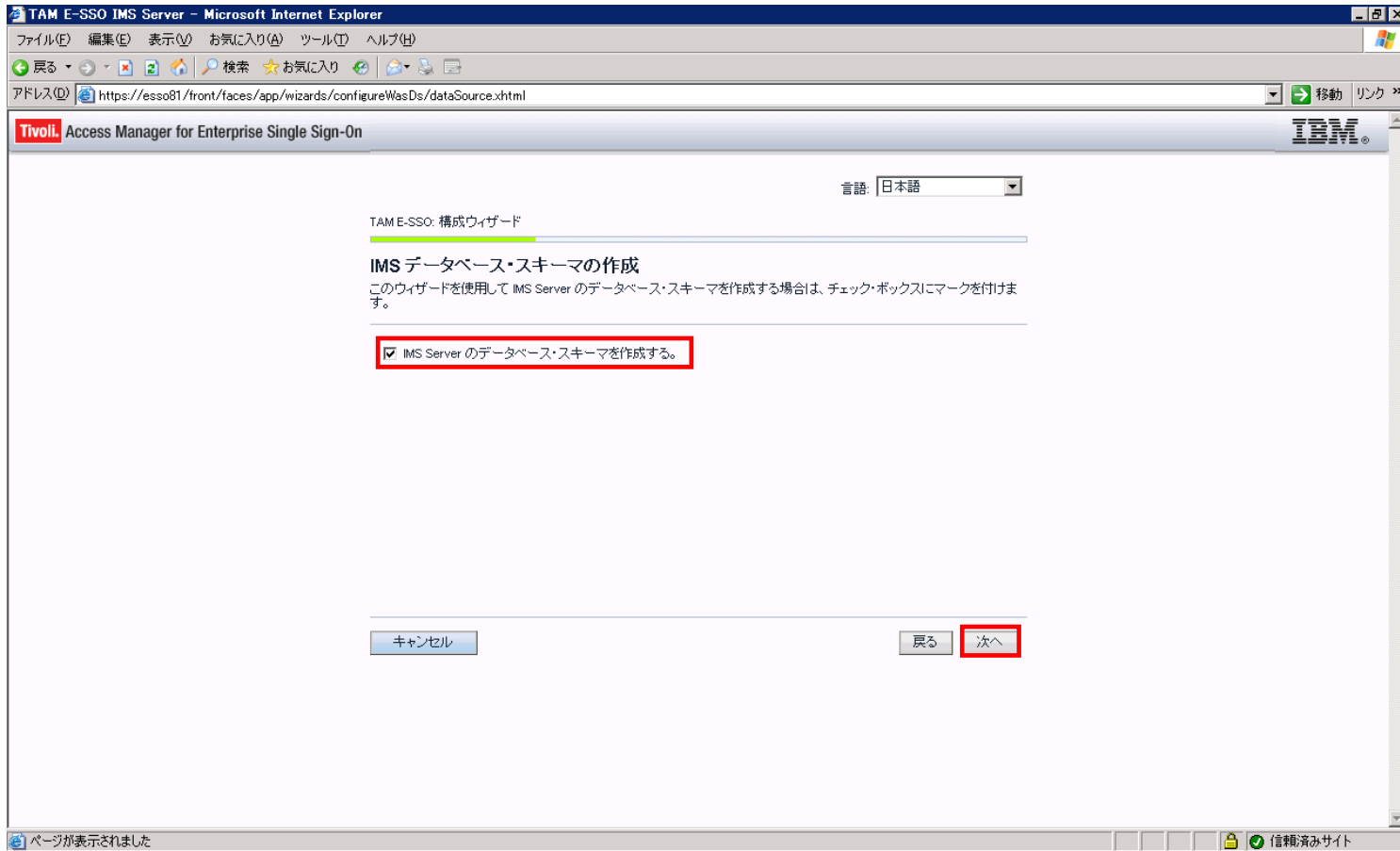
JNDI 名
jdbc/ims

JAAS - J2C 認証データ別名
imsauthdata

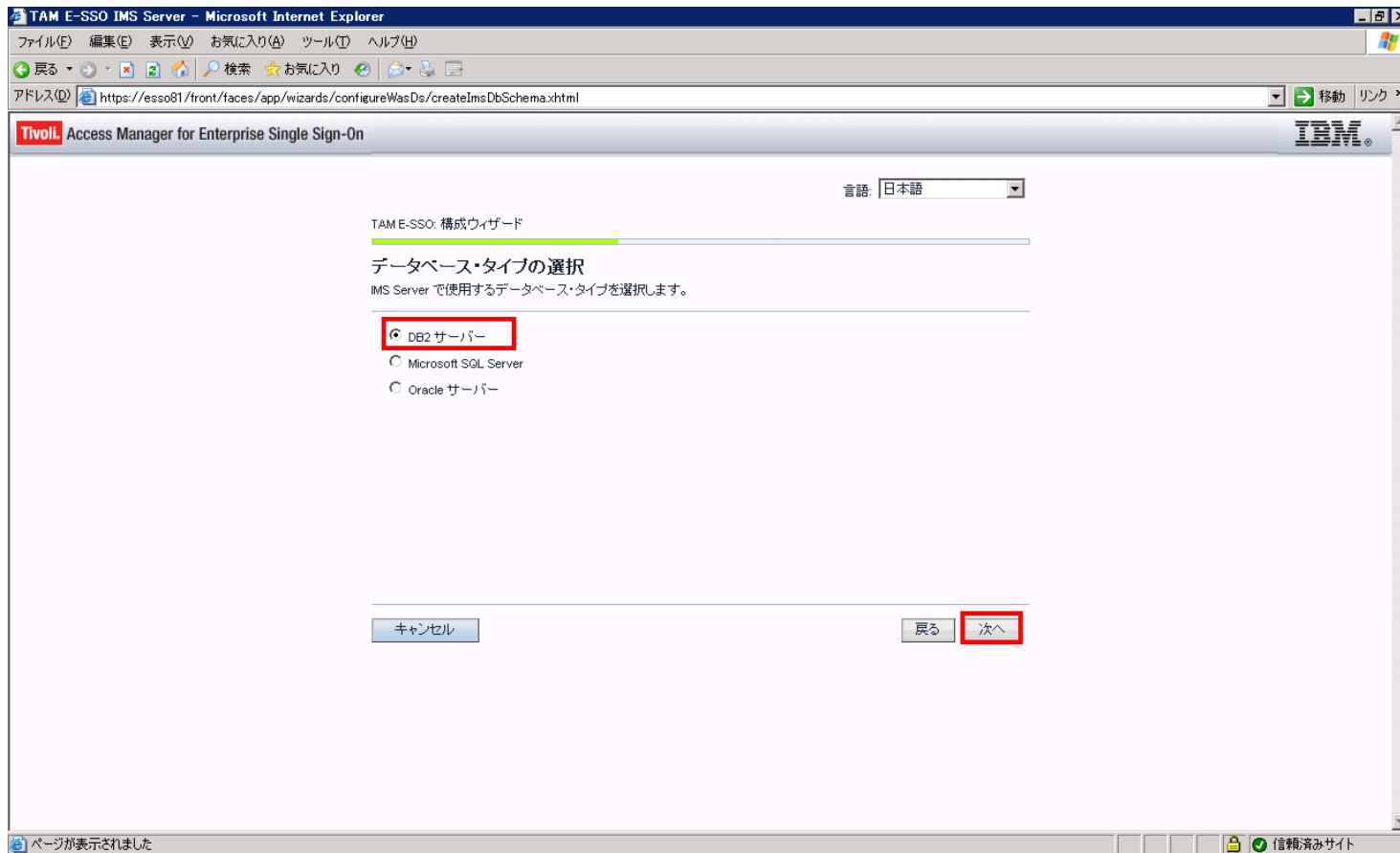
キャンセル 戻る 次へ

ページが表示されました 信頼済みサイト

- 以下の画面でIMSデータベーススキーマの作成を指定し、「次へ」進みます。



- 以下の画面でDB2サーバを選択し、「次へ」進みます。



- 以下の画面で事前に作成した「imsdb」を指定し、「次へ」進みます。

TAM E-SSO IMS Server - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り 移動 リンク

アドレス(AD) https://esso81/front/faces/app/wizards/configureWasDs/chooseDatabaseType.xhtml

Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On IBM

言語: 日本語

TAM E-SSO: 構成ウィザード

データベース構成 - DB2
データベースの構成情報を指定します。

ホスト名
esso81

ポート
50000

データベース名
imsdb

ユーザー名
db2admin

ユーザー・パスワード

キャンセル 戻る 次へ

ページが表示されました

- 以下の画面でルートCA詳細を指定し、「次へ」進みます。

TAM E-SSO IMS Server - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り 移動 リンク

アドレス https://esso81/front/faces/app/wizards/configureWasDs/dbConfigDb2.xhtml

Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On IBM

言語: 日本語

TAM E-SSO: 構成ウィザード

ルート CA 詳細の指定

IMS Server 中間 CA の署名に使用されるルート CA の鍵ストア名、パスワード、および証明書別名を入力します。

鍵ストア名: NodeDefaultRootStore

鍵ストアパスワード:

ルート CA 別名: root

キャンセル 戻る 次へ

ページが表示されました 信頼済みサイト

- 以下の画面でIMS ServerのURLを指定し、「次へ」進みます。

TAM E-SSO IMS Server - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り 移動 リンク

アドレス(D) https://esso81/front/faces/app/wizards/configureCertAndPort/collectRootCaInfo.xhtml

Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On IBM

言語: 日本語

TAM E-SSO: 構成ウィザード

IMS サービス URL の構成

AccessAssistant が IMS Server に接続するには、IMS Server サービスの URL が必要です。

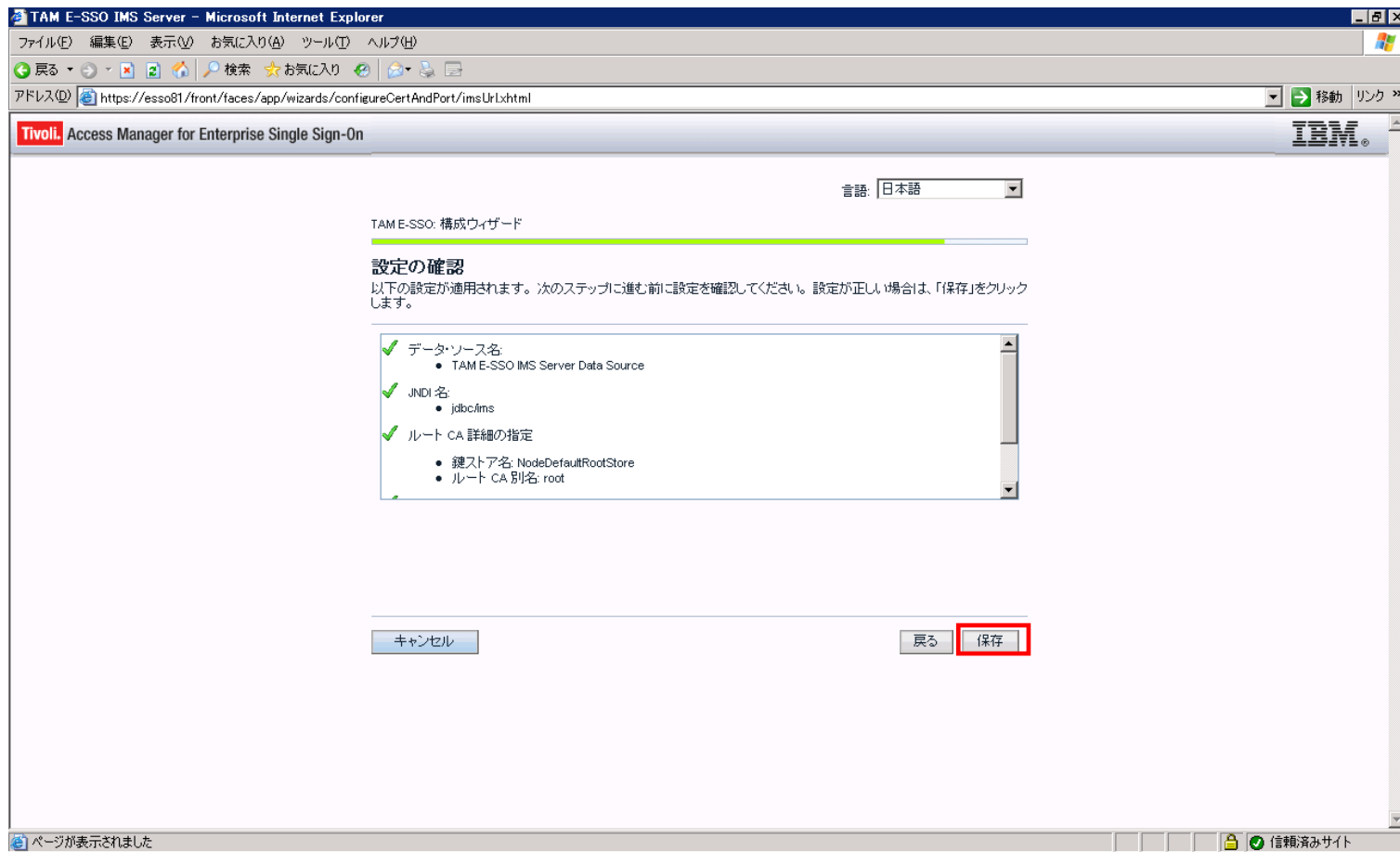
Web サーバーの完全修飾名:

HTTPS ポート番号:

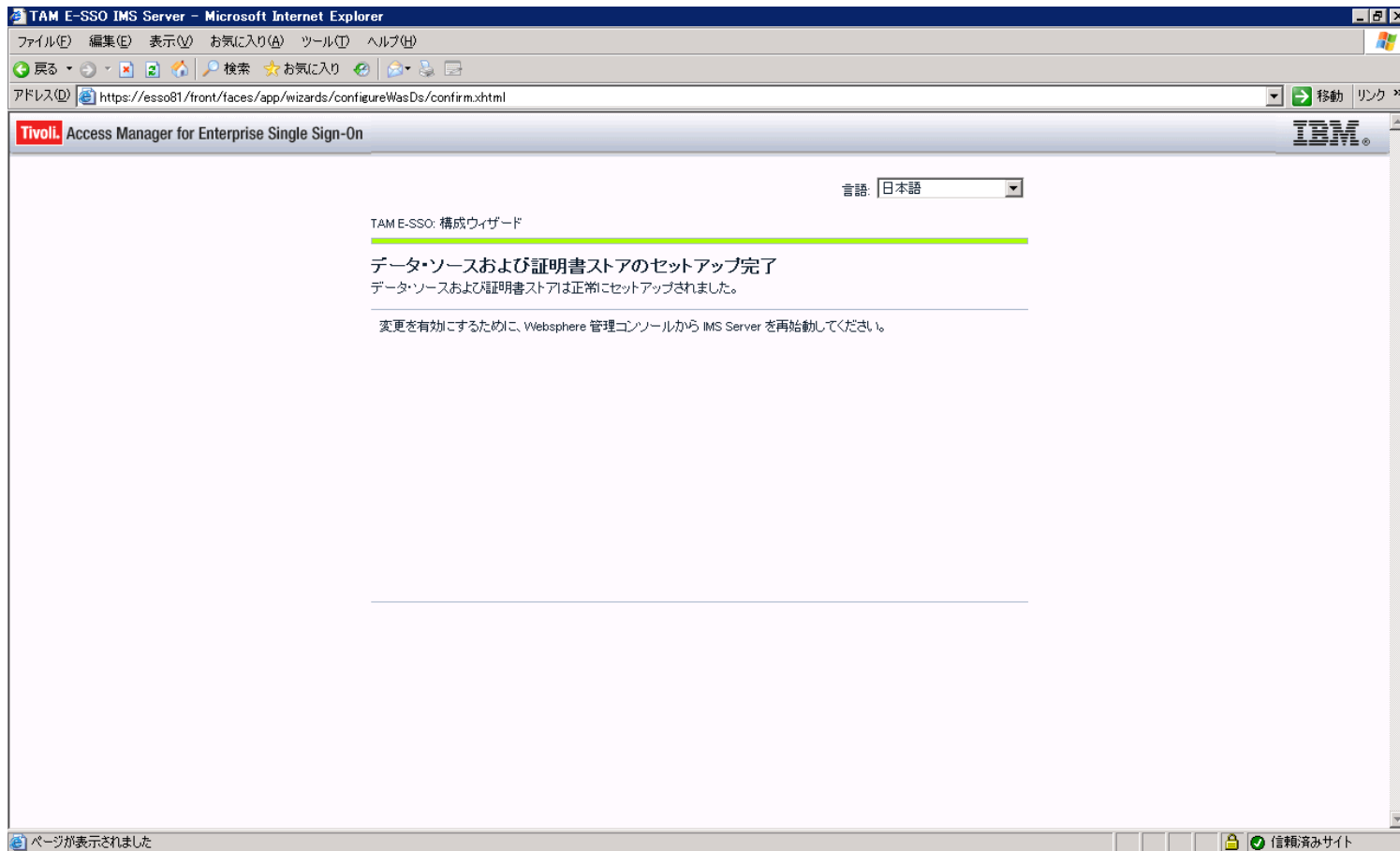
キャンセル 戻る 次へ

ページが表示されました 信頼済みサイト

- 以下の画面が表示されます。「保存」をクリックします。

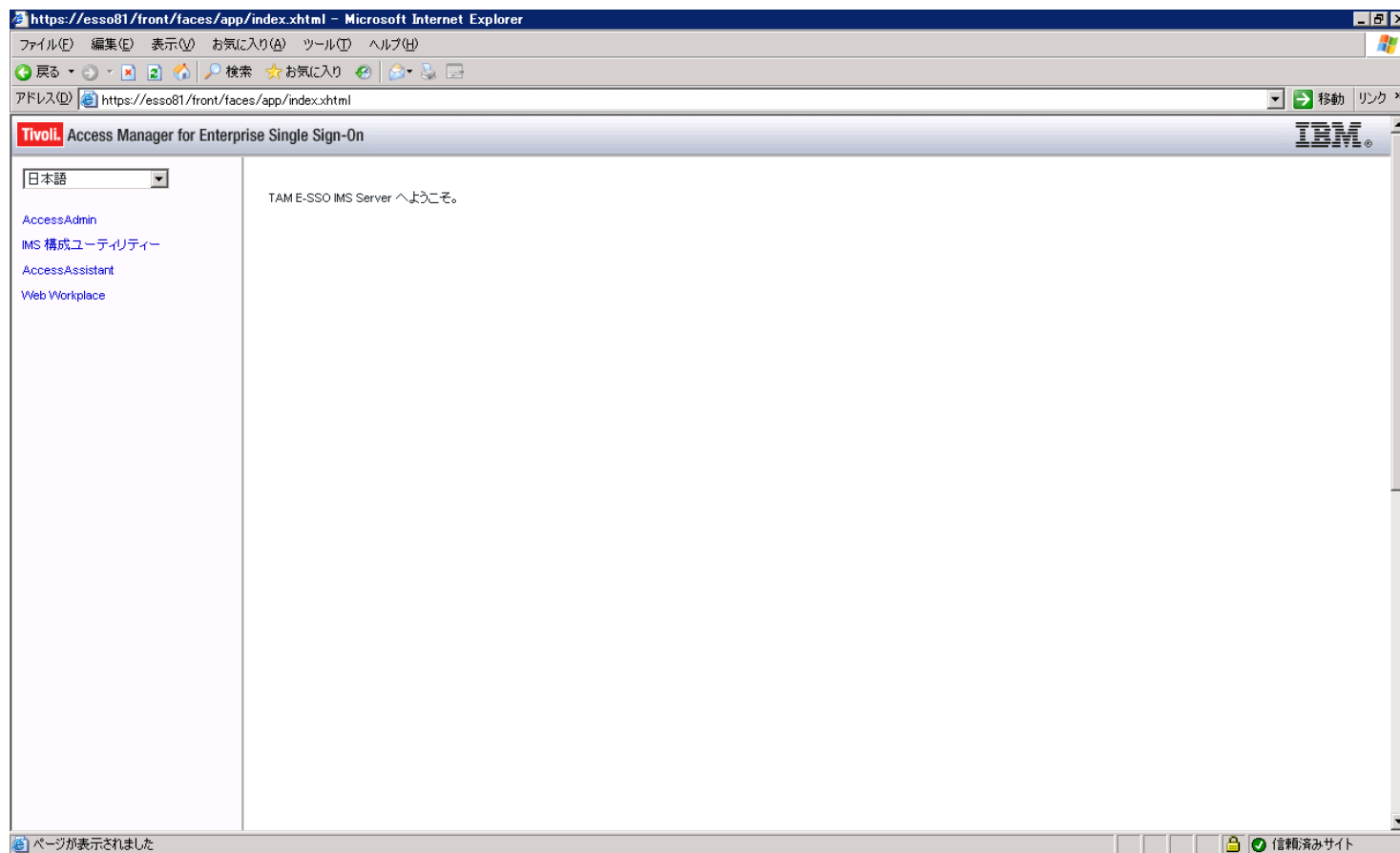


- 以下の画面で示された、IMS Serverを再起動します。



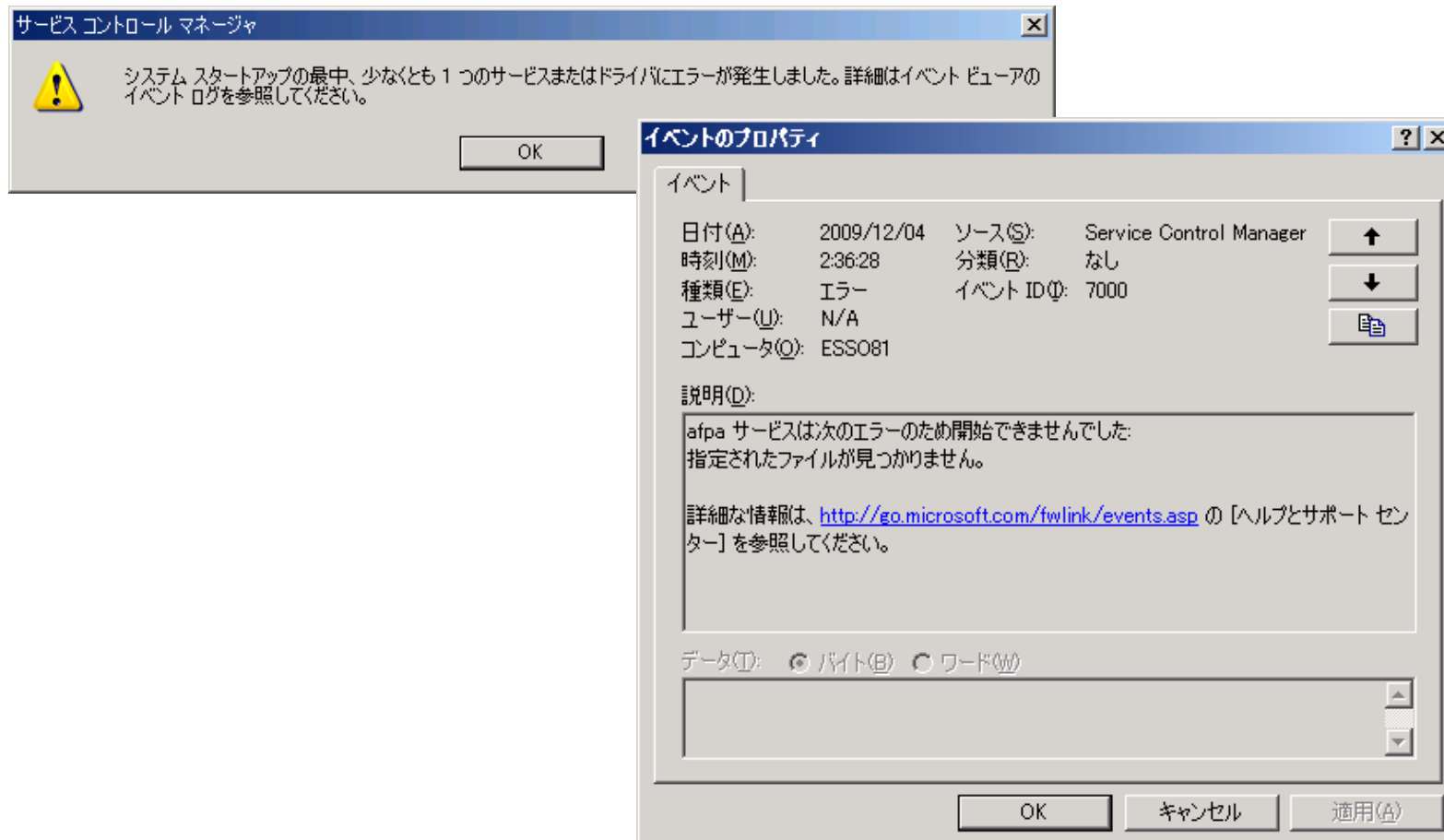
構成ユーティリティへの初回ログイン

- wasadmin (WebSphere管理ユーザでログイン) します。



OS起動時エラー対策

- IHS 7.0導入後出力されるドライバエラー解消方法は以下となります。



- 「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」のメニューからコマンドウィンドウを起動します。

以下の手順に従いドライバ定義を削除し、Windowsを再起動します。

```
C:>cd C:\IBM\HTTPServer\bin
```

```
C:\IBM\HTTPServer\bin>AfpaCmd.exe -u
```

```
C:\IBM\HTTPServer\bin>
```

